



「ミサイルよりも を！」みんなの願いを8.6新聞意見広告に載せて

藤井純子（第九条の会ヒロシマ世話人）

8.6 ヒロシマ朝、非戦・非核を願う市民は平和公園外へ？

8月6日早朝、広島原爆ドーム周辺には昨年のG7に次ぐほどの警察車両が並び、異様な風景だった。毎年、私たちヒロシマ市民が原爆ドーム前でやってきた「グラウンドゼロのつどい」は、平和公園外の電車通りを挟んだ北側で行うことになった。「つどい」のまわりには多くの警官が立ち、はばかり、40年続けてきた8時15分のダイ・インも反原発デモの出発も原爆ドーム前でできなかった。平和公園入場規制は、昨年まで式典会場だけだったが、今年は平和公園全体へと広げ、何の法的根拠もないと認めながら「安全対策」だとして、手荷物検査場を6か所設置し警察官も配置して、プラカードや横断幕、スピーカーの持ち込み、はちまきやゼッケン着用さえ禁じた。（規制問題詳細はP8大月原稿）

この規制は、田村広島大名誉教授（行政学）の指摘のように、「言論・集会の自由の制限に当たり、憲法違反である」ことは明らかな。核兵器を保有し、ガザへのジェノサイドを続けるイスラエルを式典に招待した広島市。平和公園から「軍拡反対・核廃絶を願い行動する人々」を締め出し「表現の自由」を奪い、「核抑止論に頼る人・国々」を招き入れたかのような松井市政の変遷に怒りを覚える。国の政策や米国の意向に反対する市民活動の排除を狙っていたことも確かだ。最近、市民の平和活動に原爆資料館会議室も自由に使用せられないなど様々にその姿勢が顕著になってきた。これらは戦後日本の根の深いところに通じ、私たちは非常に困難な問題に直面している。が諦めるわけにはいかない。

岸田首相の政権投げ出し

岸田首相は、大軍拡、原発回帰、大増税を進め、安倍元首相の国葬や統一教会との癒着、裏金問題で大批判にさらされ、総裁選から身を引かざるをえなくなった。何も解決できないまま政権を投げ出すに等しい。賃上げも結局大手だけで弱小企業にはまわらない、介護など福祉は後退を重ね、生存権の保障ができるわけもない。九条を壊し、戦争する国にする目論みなど憲法を守らない首相は退陣あるのみ。任期中の改憲も、国会内外の声で消え去った。総裁選報道はエスカレートするばかりだが、積み残し問題をしっかり報じるメディアであってほしい。衆議院選挙は早くも11月？遅くとも1年以内には必ず行われる。自民党政治を終わらせるために、私たち市民も立場を超え、立憲野党との連携を高めていこう。

子どもの貧困に、民間＋国会で希望の動き

6月の通常国会で、「子どもの貧困解消法」が成立した。民間団体の要望を推進議連が積極的に取り組んだ結果、2013年の「対策法」を「解消法」に変え、社会的な取り組みを始めることとなった。親も将来に対する不安がとにかく大きい。家族の頑張りではどうしようもないことも多い。「憲法25条」に則り、子どもたちの生存権として「国の責任」で貧困解消に取り組むことが約束された。市民と熱心な国

會議員たちの努力の成果であり、「憲法を活かす社会に」と様々に活動する私たちにも希望となった。

西日本で大軍拡反対の連携を

8月末の米韓軍事演習に対し中国も朝鮮もかなり反応している。それに自衛隊が加わればますます刺激する。政府は大軍拡を進めるため、米兵の性暴力事件を沖縄県に隠して声をふさいだ。米軍基地のある市町も同様に隠され、地位協定の運用も元に戻され憤りに耐えない。この9月広島で、西日本の大軍拡を止める集会を行い連携を深めたい。

核燃料サイクル破綻 島根原発を動かすな！

報道によると、8月23日、日本原燃は六ヶ所村に建設中の使用済み核燃料再処理施設完成の延期を表明した。なんと27回目、2年半の延期だ。中国電力と関電が画策する上関の中間貯蔵施設案も消えてほしい。国策として国がバックアップすれば莫大な税金が無駄に使われる。中電も貯蔵庫の建設と、永久になるかもしれない維持のための資金を電気料金に上乗せする。私たちは危険にさらされる上、ダブルでお金を吸い上げられる。これを機に核のゴミを生む原発をやめさせよう。

更に原子力規制委員会は28日、日本原子力発電敦賀原発2号機の原子炉建屋直下の活断層が否定できず、再稼働は認めないとして30日間のパブコメの後、再稼働申請を10月にも不許可とする方針を出した。もはや再処理などという幻想は捨てるべきだ。広島でもこの秋、島根原発再稼働をやめろ！と全力で声を上げる。

8.6 新聞意見広告掲載の小さな成功に感謝！！

4500を超える皆さんにご賛同頂き、8.6新聞意見広告24を朝日新聞朝刊全国と中国新聞全エリアに掲載出来た。イラストの中島町には人々の暮らしがあった。（p3 制作者、石岡真由海さんから）原爆はその街を瞬時に破壊し、あらゆる命をのみ込み、焼き尽くした。まさにジェノサイドであり、核使用は許されない。また、かつて陸軍の兵士が集結し出撃した「軍都」広島。加害の歴史を省みて「過ちは繰り返させはしない。戦争の準備により近隣諸国との緊張を高めてはいけない」との思いを込めた。

私たちは新聞意見広告によって「意見表明」し、それを見た方々に賛同して頂き、ストップ改憲の世論を高める一助になればと願って毎年掲載をしている。「戦争をしない国」のままであってほしい、そのために自分に何ができるか探している人も多いはずだから。嬉しいことに意見広告を見て「思いは同じだ」「頑張ろう」というメールやFAX、またカンパを送ってくださって大いに元気を頂いた。同封したカラー版をご覧になってご感想・ご意見をお寄せ頂きたい。

「ミサイルよりも〇〇〇を！」この広告と一緒に作った皆さんに感謝し、非戦・非核・非ジェノサイド、そしてストップ改憲。憲法を活かす道をこれからも共に歩みたい。

「夫婦別姓も選べる社会へ！訴訟」に応援をお願いします

恩地いづみ（別姓訴訟を支える会）

本会報に何度も書かせていただいた二次別姓訴訟続編です。別姓訴訟団は三次別姓訴訟を今年3月8日に提訴し、6月27日には東京地裁での初回期日がありました。



（2024年6月27日東京地裁初回期日 入廷）



公式LINE
アカウント

ご承知の通り、「選択的夫婦別姓」への法改正を求める運動は40年以上続いています。海外では元々改姓しない国・文化もありますが、妻は夫の姓を名乗るとしてきた国も次々に別姓や複合姓などどちらも改姓しない選択肢を持つようになり、いまや日本は同姓強制制度をとる世界でただ一つの国となりました。

一方が改姓しなければ婚姻届が出せないため、不本意な改姓をする人がおりアイデンティティの喪失、氏名変更による職業／研究実績の断絶などの困難が生じています。婚姻カップルの約95%で妻が改姓しており、少数の改姓夫への偏見の問題もあります。

これまでの経緯

1996年、法制審は選択的夫婦別氏制度導入の法案を答申しました。同姓を希望する夫婦はこれまで通り、双方それぞれ結婚前の姓を称することを望むならそれを認める制度です。戸籍制度は変えません。同時に答申された婚姻開始年齢平等化、再婚禁止期間平等化、婚外子相続分差別撤廃、成人年齢引き下げ、面会交流・養育費の明文化は改正されたにもかかわらず、保守派の強い反対により選択的夫婦別姓だけが法改正されないままなのです。

非論理的反対論

今までの制度に、それぞれの姓を維持できる選択肢を加えるだけ。これにどのような反対があるのでしょうか。首相、法相は「国民の間に様々な議論がある。」と繰り返しています。SNSなどでよく見かける反対意見としては、

- ・子どもによくない影響がある、子どもの姓が決まらない、
- ・家族の絆がこわれる、
- ・同姓夫婦が時代遅れとされる、
- ・通称別姓はいいが、法律婚別姓はだめ、

など。これらの反対論には、皆さんがそれぞれ総突っ込みで反論してくださるものと思います。

バックラッシュ

右派は1990年以降、性教育、日本軍「慰安婦」問題などと共に選択的夫婦別姓を標的としてバックラッシュを展開しました。選択的夫婦別姓への反対を主な国民運動の一つとして位置づける日本会議は、地方から地道な草の根活動で多くの反対意見書を可決させるなど強硬な運動を行ってきました。「家族の絆」という優しい言葉を、家父長制を温存し、個人に犠牲や我慢を強いたかつての家制度の世界観に重ねる日本会議系や旧統一協会等宗教右派と自民党右派とが結びついて、ジェンダー平等に反対してきた構図は、安倍元首相の銃撃事件をきっかけに表面化しています。

岸田首相は、「国民の価値観や心の問題に関わる」とも答弁しましたが、「個人の価値観」で他の個人の名前の尊厳を蔑ろにし続ける事を容認しており見過ごせません。国民の登録システムにイデオロギーを持ち込んで、法改正を阻害し続けているのです。

「通称使用で不都合が緩和される」の誤り

自民党反対派は「慎重派」と自称し「女性活躍」のためと通称使用拡大に力を入れますが、経済活動で使えないところが多く、海外でも通用せず、通称≠「本名」です。通称使用をする人のための施策であり「本名」として使うものとは別物であるのに、使えるかのように混同させ、誤魔化しているのです。

こんな通称使用を国まで真顔で国民にお奨めしてくるって、何？です。

メインストリーム化する選択的夫婦別姓

それでもバックラッシュに対抗する運動も続いてきて、世論は容認に転じています。最近の各種調査では賛成が過半数を越え、自民党支持者でも4割以上が賛成です。

そして今年更に大きく動きました。

4月、日本弁護士連合会初の女性会長の淵上玲子さんが、6月には経団連の十倉雅和会長が選択的夫婦別姓の実現を求めました。野党、与党公明党、弁護士会のみならず経済界からも応援の声があがり自民党保守派を包囲しているような状態になっています。

もう一息

「夫婦別姓も選べる社会」を求める運動は、非論理的で合理性のない同姓強制制度を放置せず、幸せを感じる人が増える選択肢を増やす、そんな社会に向けた取り組みの一つです。

違憲判決を得て法改正の実現に繋げるよう、別姓訴訟団は裁判を闘っています。応援をお願いいたします。

今後の期日予定は下記です。東京、札幌に傍聴においでください（訴訟紹介チラシ同封） ◆公式ウェブサイト <https://bessei.net/>

■ 東京地裁 2回期日

9月20日（金）14時～

東京地方裁判所 103号法廷（大法廷）

■ 札幌地裁 初回期日

10月21日（月）11時10分～

札幌地方裁判所 805号法廷（大法廷）

海洋保護区での港湾建設や埋立て・浚渫は禁止が当然

生物多様性から見た上関『使用済み核燃料中間貯蔵施設』計画

湯浅一郎（環瀬戸内海会議共同代表）

2023 年 8 月、中国電力（以下、中電）は、上関町での「使用済み核燃料中間貯蔵施設」の立地調査を表明し、今年に入りボーリング調査を強行している。再処理工場、高速増殖炉、高レベル放射性廃棄物処分場など何処から見ても核燃料サイクルの破綻が明確な中、原発再稼働を推進するという国の愚かな方針のつじつま合わせの不当な政策が出てきた。この問題の背景に 1982 年に登場した上関原発計画が未だくすぶっているという問題もある。2022 年 11 月 28 日、山口県知事は、上関原発建設埋立て免許期限を 2027 年 6 月まで延長する 3 回目の承認を行っている。

しかし、こんなことのために、かけがえのない自然と生物多様性を壊してはならない。ここでは、当該の中電所有地が面する海は、100%、海洋保護区であり、海洋保護区での港湾・防波堤建設や埋立て・浚渫は生物多様性の保全の観点からありえない計画であることを明らかにする。

1. 100% 海洋保護区で囲まれた上関の中電所有地

山口県 HP に掲載されている共同漁業権第 89 号の海域図を図 1 に示す。私は、この図を見たとき、長島西端の田ノ浦沖の上関原発の埋立て予定海域との境界が示されていないことに疑問を持った。田ノ浦沖は、2000 年 4 月 27 日、四代や上関漁協と中電が漁業補償契約書を取り交わし、田ノ浦沖などの海域は「漁業権消滅区域」とされている（図 2）。しかし、図 1 には、図 2 の「漁業権消滅区域」との境界がないのである。

2024 年 6 月 26 日、山口県議会において中島光雄議員が「公開されている共 89 号（長島西部）、共 84 号（長島中部）の図のすべての海域が共同漁業権を有していると考えてよいのか」との質問をした。これに対し県は「共同漁業権共第 84 号と共第 89 号の漁場図で示している全ての海域について、現在、共同漁業権が免許されています」と答弁した。

これにより、田ノ浦沖は、漁業補償がなされて漁業権が放棄されていることになっているが、「今も共同漁業権がある」ことが分かった。漁業権は「漁業を営む権利」と定義されており、漁業者が免許申請をしてきた場合には、県知事としては「漁業の免許」を半ば自動的に出しているのかもしれない。いずれにせよ、中電所有地が面する海は、すべて「生物多様性の保全」という目的を持った海洋保護区であることが初めて認識された。

図 1 山口県長島における共第 89 号共同漁業権区域図

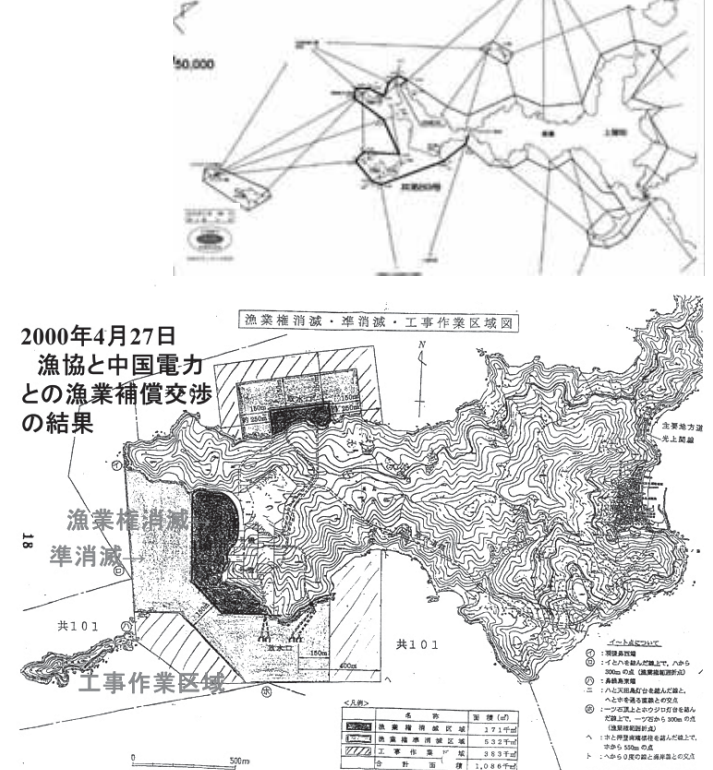


図 2 漁協と中国電力との漁業補償に基づく漁業権消滅・準消滅・工事作業区域図

背景を説明しよう。2010 年、生物多様性条約第 10 回締約国会議（名古屋）において、2020 年に向けて生物多様性を保全し、回復するための国際合意として 20 項目の「愛知目標」が採択された。その第 11 項目は「2020 年までに沿岸の 10%を海洋保護区にする」としている。これを受け環境省は、2011 年 5 月、「我が国における海洋保護区の設定の在り方について」なる文書で、海洋保護区を「海洋生態系の健全な構造と機能を支える生物多様性の保全及び生態系サービスの持続可能な利用を目的として、利用形態を考慮し、法律又はその他の効果的な手法により管理される明確に特定された区域」と定義した。環境省は、この定義に基づき 2020 年に向け、自然公園法、自然環境保全法、鳥獣保護管理法、水産資源保護法、海洋水産資源開発促進法、漁業法など既存の法律に基づいて作られている「特定の区域」を、そのまま海洋保護区として選定し、国連にも報告されている。

しかし、環境省や各県は、愛知目標に対応した海洋保護区が決まっていることの公表を意識的に避けているように見える。その結果、漁業者を初め市民に、この認識はほとんどない。かく言う私自身が、昨年 10 月、瀬戸内法 50 年プロジェクトの活動を通じて気づくまで明確

な認識はなかった(『瀬戸内法 50 年』(環瀬戸内海会議編)参照)。

以上から分かるように共同漁業権区域は海洋保護区である。そして上関の中電所有地が面する海は共同漁業権区域に囲まれているので、結果として 100%海洋保護区に面していることになるのである。

2. 海洋保護区での法的規制は無いが、 その目的は「生物多様性の保全」だ

しかるに海洋保護区に選定されていたり、生物多様性国家戦略があるから自動的に開発が止まるわけではない。環境省は、設定した海洋保護区の生物多様性を保持するための指針や法的規制を何も定めていない。「各所管省庁がそれぞれの制度の目的に応じてその目的達成に必要な規制を設けており、それらの適切な運用を通じて、海洋保護区を管理していくことが重要である」としているだけである。つまり、当該の法制度(例えば漁業法)の運用によって管理していくというわけである。しかし、海洋保護区と称した以上、その目的に照らして「生物多様性の保全に逆行する行為は禁止する」との規制をかけるのが当たり前である。

この状況では上関の海の生物多様性の豊かさを明確にし、それに照らして海洋保護区としての「生物多様性の保全」を求めていく声を市民があげていくしかない。ここで、環境省が、2016 年に愛知目標を推進する基礎資料として『生物多様性の観点から重要度の高い海域』として沿岸域 270 海域を抽出しているデータが生きてくる。瀬戸内海には 57 海域あるが、上関の中電所有地が面する海は、原発予定地である田ノ浦海岸をはじめ「長島・祝島周辺」と名付けられた「海域番号 13708」の中心に位置している。その特徴として「祝島と長島を隔てる水道はタイの漁場として有名であり、スナメリやカンムリウミスズメが目撃されている。岩礁海岸ではガラモ場が非常によく発達しており、生産性も高い。宇和島ではオオミズナギドリの繁殖地が見つかっている。」「護岸のない自然海岸が多く、瀬戸内海のかつての生物多様性を色濃く残す場所である」としている。270 海域の中でも生物多様性の豊かさという点ではトップクラスである。

こう見てくると、上関原発計画の海面埋め立てに関する山口県知事の埋立て承認は、対象海域が愛知目標に対応した海洋保護区となっているという新たな文脈の中で、その不当性が浮かび上がっている。<「生物多様性の保全」を目的とした海洋保護区を埋めることはあり得ない>というスローガンを掲げたキャンペーンができるはずである。

3. 浮き彫りになった山口県のやる気のなさ

上記の問題意識の下、環瀬戸内海会議は 2024 年 7 月 8 日、山口県に対し生物多様性を保全する観点から上関

町の「使用済み核燃料中間貯蔵施設」計画、原発予定地の埋立て免許延長許可の撤回を申し入れた。そのやり取りから山口県は、生物多様性の保全を進めようとの姿勢が全くないことが浮き彫りになった。

「中電所有地は基本的に田ノ浦沖も含めて 100%海洋保護区に面しているという認識は県としても同じ認識でいいか」と問うたところ、「国がそのように定めたことは認識している」とするだけで、初めは県として主体的にそう認識しているとは答えなかった。何回かのやり取りののち、ようやく「共同漁業権区域も海洋保護区の中の一つであるということで県としても認識している」と答えた。また「山口県の海洋保護区の全体像を地図として把握しているのか?」との質問に、自然保護課の担当官は、「自然公園法など自然保護課の担当する区域については HP にのせている」としながら、「共同漁業権に係るものは管轄外のことになるので、私の方では答えられない」と繰り返した。海洋保護区に関する担当課がどこなのかが全く明確でないという問題が浮上した。また「知事部局は、田ノ浦沖を含めて埋立て承認をした海域は『生物多様性の保全』を目的とした海洋保護区であることを認識しているか」との質問に対しては、明確な回答はなかった。

国として海洋保護区は選定したが、その法律的な根拠がないため、自治体としても、それをいいことに厳しい規制をかける意思がないことが見えてきた。この状況を変えるためには、山口県民をはじめ市民からの「海洋保護区においては大型港湾や防波堤の建設、ましてや海面埋立ては禁止するのが当たり前だ」という強力な世論を作り上げ山口県、環境省に迫っていくことが必須である。

20 世紀末、人類は、このまま生物多様性を破壊していけば自らも含めて破滅への道であることに危機感を抱き、1992 年、リオデジャネイロでの地球サミットで生物多様性条約と気候変動枠組み条約をセットで採択した。しかし 30 年間の努力にもかかわらずどちらも事態の改善は見えていない。この状況を打開すべく作られた新たな国際合意は、「今までどおりから脱却」し、「社会、経済、政治、技術など横断的な社会変革」をめざすとの基本理念を掲げている。社会変革の中身はあいまいではあるが、法体系をも含め現代の物質文明の「変革」をめざした壮大なテーマが想定されている。しかし、日本政府や自治体は個別具体的な事業で生物多様性の損失をもたらすとは考えられない要素があっても、何一つ本気で対応しようとしていない。これを進めていけるかどうかは民衆の意志と具体的な行動にかかっている。上関の問題を巡る攻防は、そうした文脈における一つの重要な取り組みになるはずである。

山口県上関町に核のゴミはいらない！そしてどこにも

三浦翠（原発いらん！山口ネットワーク）

山口県出身の林芳正官房長官は 2024 年 7 月 30 日、「上関町の中間貯蔵施設建設に国としても主体的に取り組む」と推進を明言した。自分の県に使用済み核燃料が持ち込まれるのを歓迎する政治家がいることに愕然とする。

山口県は多くの首相や政治家を輩出しているが、岩国基地を東洋一の米軍基地にしてしまい、今やオスプレイまで配備されてしまった。県民は騒音、米兵による犯罪、その上危険なオスプレイが飛び交う中での暮らしを余儀なくされている。

上関原発を誘致したのも自民党の故吹田晃国会議員だ。それを祝島の人達の長い戦いで止めて来て、3・11の福島事故が起こり、原発の建設そのものが無理になり、やっと上関町にも平和な暮らしが戻ってくると思っていたら、今度は使用済み核燃料を押し付けてくる。県民の困ることばかりしているのが実態だ。

山口県出身の国会議員というが、安倍氏にしても林氏にしても山口県で育ってはいない。東京育ちだ。だから県民の心情などわかりもせず・・・と愚痴ってみても、結局そういう国会議員を当選させる県民が悪いのだが、県議会の自民党がまたこういう国会議員とべったり一体だ。

県議会の自民党も中間貯蔵施設建設推進で固まっている。問題が発覚して以来県議会に毎回出される反対の請願は 41 対 6 ですべて棄却されている。反対討論に対してあざ笑うような雰囲気 of 県議会だという。「反対するのは感情論だ」と。

使用済み核燃料はとてつもなく危険なものだ。キャスクの中に入っているのは人が近づけば死んでしまう程の危険な放射性物質だ。それがほぼ無害になるには 10 万年かかると言われる。一方、キャスクに使われているエポキシレジンという中性子遮蔽材は中性子によって劣化し 50 年たてば遮蔽力を失う。専門家（牧田寛氏）によれば「運用開始後 40 年たてば深刻な事態となる。」という。行き場がなくて置いたままになるという単純な問題ではない。膨大な量の放射性物質がむき出しで存在することになるのだ。

福島事故の時、4 号炉の使用済み核燃料プールの水が無くなり、使用済み核燃料がむき出しになったら首都圏を含む 2500 万人が避難しなければいけないと言われた。幸い偶然にも 4 号機原子炉ウエルとの仕切りが外れ

て水が使用済み核燃料プールに流れ込んだことでこの危機は避けられた。しかし中間貯蔵施設に置かれる使用済み核燃料は 5000 トンという桁違いの量だ。それがむき出しの状態になったら何が起るか。おそらく西日本に人は住めなくなるだろう。それ以上かもしれない。

キャスクに入れていても表面からは常時放射線が 1 時間当たり 2 ミリシーベルト出ている。30 分密着していれば年間被ばく線量の基準を超えることになる。「触ってみたけどちょっと温かいだけで安全だった。」と西町長は東海村の施設を視察して発言しているが、頭の中は交付金の事ばかりで、電力会社の宣伝を丸のみにしている。

中電の宣伝紙「かけはし」の 2024 年 1 月号の表紙にはキャスクを運ぶ船の写真が載っているが、船倉にキャスクを入れその上に分厚いコンクリート板で蓋をしている。キャスクからの放射線を防ぐためだ。

中電が関西電力と共同で山口県上関町に中間貯蔵施設建設計画を発表したのは 2023 年 8 月 1 日。突然全国ニュースで流れ地元も県内も騒然となった。上関町役場前には祝島、近隣市町、県内、大分、広島から多くの人々が抗議に駆け付けた。周辺自治体の首長からはまちづくりにとって大きなマイナスになると強い懸念の声が上がった。

1982 年から始まった上関原発計画が 3・11 の事故で止まり、町に入る交付金先細りするなか西町長が中電に新たな振興策を求め、それに対する中電の回答がこれだった。西氏は町長になる前の町議会議長の時から中間貯蔵施設の誘致に熱心だった。

原発問題が起こってから 42 年、上関町内は原発推進、反対で激しく対立してきた。中電は町の入り口に事務所を建て、50 人の社員を常駐させて立地工作にあたらせた。それは手段を選ばないやり方で飲ませ食わせの買収、集団で原発旅行に連れていき夜は宴会。そういう中で、町内では原発反対とは表立っては言えないような雰囲気になっていった。1987 年チェルノブイリ原発事故の翌年の町長選挙では公然と違法転入事件まで起こして推進派の町長を当選させるようなことまでしている。

長い年月の間に中電は上関町民の暮らしに深く介入し、就職の世話から縁談の世話まで、最近ではお年寄りの買い物や通勤の足になり、お年寄り達の暮らしを中電

に依存させるよう仕向けてきた。その結果が 2022 年秋に行われた町議選だ。10 人の定数中 7 人が原発推進派、3 人が祝島の若い原発反対派。これが現在の中間貯蔵施設の賛否に重なっている。西町長はこの多数派の上に胡坐をかいて 2023 年 8 月 18 日、議会での採決さえもせず、中電の調査受け入れを発表した。そして 2024 年 4 月 22 日から現地中国電力所有地内でボーリング調査が始められている。

しかし上関町民の意識も変わってきている。2024 年 7 月 24 日中国新聞発表のアンケートによると中間貯蔵賛成 44.3%、反対 44.8%となっている。その回収率が 40%しかないのが気になる。すべて中電が見張っている中で行われることなので。一方、原発に対する賛否は撤回凍結が 55.4%、推進が 37%。町会議員数が町の世論とずれていることは間違いない。冒頭の林官房長官の発言はこのアンケート結果への危機感からのものだろう。さらに推進派は 8 月 5 日には元経産官僚の石川和男氏を招いて講演会をおこなっている。

これまで上関原発計画に反対してきた原水禁山口、祝島島民の会、上関町民の会、上関の自然を守る会、原発いらん！山口ネットワーク、上関原発に反対する 2 市 4 町議員連盟は、時には共同で、ときには単独で様々な行動をしてきた。計画発表後すぐに動いたのは議員連盟で、首長を訪ねて、中間貯蔵施設の危険性を訴えた。誰もが町づくりにマイナスになると本音を語った。現在では連合婦人会も立ち上がって反対署名を集めている。

8 月 26 日にはまだ健在だった伴英幸さんに上関総合文化センターで「中間貯蔵施設とは何か」と題して講演をしてもらった。このときは会場が満杯になった。その後、末田一秀さんには上関町と県内 2 か所で「使用済み核燃料の行き場はない」という話を、越智秀二さんには「能登半島と同じ問題を持つ活断層があること」を上関町で。山崎隆敏さんには「西町長が言っていることは町民への脅しであり、上関町が財政破綻することはない。」と話してもらった。

署名も集めた。2013 年 9 月から 2024 年 1 月までの 5 か月間で中国電力に 27 万筆、関西電力に 26 万筆の「上関町中間貯蔵施設建設中止を求める署名」を集めて提出。

環瀬戸内海会議は第 35 回総会を先日山口県光市で開き、「使用済み核燃料中間貯蔵施設立地調査の中止を求める決議」を発表。「中間貯蔵施設はトイレなきマンショ

ンと言われてきた原発の最大の問題を先送りするための『肥溜め』だ。環境省の定めた定義により上関の中電所有地はすべて海洋保護区に囲まれている。生物多様性国家戦略（2023 年 3 月閣議決定）により海洋保護区内では生物多様性を損なうような行為は一切禁止される。陸地での大規模な切土工事、土砂搬出は、工事中の汚濁水の流失や地下水系の変更などをもたらすことも大きな問題である。立地可能性調査をするまでもなく中国電力所有地が立地不適な場所であることはあきらかである。よって中国電力は直ちに立地調査を中止し、中間貯蔵施設の立地を断念することを要求する。」と。

私のこと。1939 年大阪生まれ。第二次大戦の空襲を身近に体験。6 才で山口県に疎開。母、妹二人と別れて一人で遠縁の養女となる。小学校時代は山遊び川遊びと自然の中での暮らしを満喫。これが生涯のエネルギーになっている。中 2 で岩国市麻里布中学に転校。基地の街を実感。高校から広島に下宿。広大付属高校に通う。文芸部と社研に所属。原爆の実状を全国の高校に知らせることなどに参加。核実験反対署名で街頭にも。19 才で結婚。広島大学文学部哲学科入学。安保闘争のデモに参加。大学 4 年で長男出産。卒業後次男出産。こどもたちを自分で育てたくて就職は断念。PTA 活動、こどもたちの遊び場づくり、子育て仲間と通学路に歩道を造る運動、ベトナム戦争反対のデモに子どもたちと一緒に参加。有吉佐和子の「複合汚染」を読んでショックを受ける。37 才の時養母が突然他界。養父の面倒を見るため山口県の田舎に帰る。無農薬有機の自給農を目指す。1986 年チェルノブイリ原発の事故にショックを受け、夫と共に友人知人に呼びかけて「原発いらん！山口ネットワーク」を作り、みんなで上関原発に反対している祝島の人達を応援する運動に取り組み現在に至る。1999 年夫他界。現在 85 才。



大人 6 名、子ども 3 名、ヤギ 1 頭、可燃ごみ 45L 9 袋、不燃ゴミ少量

広島市による原爆ドーム周辺の入場規制と表現の自由の圧殺を許さない！

広島市による法的根拠のない入场規制

今年広島市は、昨年8月6日早朝に起きた「衝突事故」を理由に、数年前から行って来た平和記念公園の入场規制を原爆ドームを含む旧西国街道の北側全域まで拡大すると発表した。その内容は、当日の午前5時から午前9時までの間、「大きな音を発するもの（マイク・拡声機・楽器類等）、プラカード・ビラ・のぼり・横断幕等、式典の運営に支障を来すと判断されるものの持込み」、「ゼッケン・タスキ・ヘルメット・鉢巻等の着用」、「（6カ所の）入场口前で手荷物検査を拒否すること」を禁止するというものであった。つまり、事実上の「集会禁止令」である。もちろん、法的根拠は全くないが、市民の集会の権利、表現の自由が侵害されることとなった。

1981年8月6日にある団体の呼びかけた「核を告発するダイイン」が皮切りとなり、これまで様々な団体によって引き継がれてきた。そして、2011年まで原爆ドーム周辺は、様々な団体の表現の場となっていた。しかし2011年3・11福島第一原発事故の後、この年の8月6日に「8・6ヒロシマ大行動」（中核派）が原爆ドーム前に現れた。中核派のスローガンは「平和記念式典粉碎」であるため、大音量で街宣活動をした。翌年、第2次安倍政権が誕生してからは、その音量が問題視され、中核派とそれに反対する右翼、警察権力、広島市職員が対峙する場となってしまった。

当初問題にされていたのは、「音量問題」であった。しかし、昨年8月6日早朝に起きたとされる広島市職員と中核派の衝突事故（現行犯逮捕ではなく、半年後の2024年2月に逮捕される）を理由に、「音量問題」が「安全問題」にすり替えられてしまった。

それによって、長年原爆ドーム前において非暴力で「グラウンド・ゼロのつどい」と「追悼のダイイン」を行って来た私たちの「表現の自由」が脅かされることとなった。

緊急オンライン署名 14000筆を広島市に提出

そこで、「8・6ヒロシマ平和へのつどい 2024 実行委員会」が全国から呼びかけ人を募り、change.org において「松井一寛広島市政による原爆ドーム周辺での入场規制・「表現の自由」圧殺に反対する緊急共同声明」のオンライン署名を始めた。7月28日23:00に開始し、8月1日16:00までにオンライン署名だけで14,000人の賛同が集まった。全国各地からの呼びかけ人38人、メールでの賛同人132人の名簿も併せて、8月1日に広島市に提出した。8月26日現在、オンライン署名だけで15,830人の賛同が集まっている。

8・6ヒロシマ平和へのつどい 2024

8月5日17:30から、広島市まちづくり市民交流プラザにおいて「8・6ヒロシマ平和へのつどい 2024」を開催した。

大月純子（8・6ヒロシマ平和へのつどい 2024 実行委員会）



今年のテーマは、

「被爆・敗戦79年 反戦・反原子力・反ジェノサイド
—イスラエルのガザ虐殺、パレスチナ占領をやめさせよう—」

2021年2月1日にミャンマーで軍事クーデターが起これ、2022年2月24日にロシアがウクライナへの軍事侵攻を始めた。武力攻撃を止めるために私たちは何をしなければならないのかを考えてきた。しかし、それらの軍事攻撃を止められないままに、2023年10月7日にハマスの奇襲攻撃を契機にして始まったイスラエルのジェノサイド攻撃が始まり、今日まで凄惨なジェノサイド攻撃が続いている。そのような状況に対して、1945年8月6日にアメリカが広島に行った原爆の爆撃は、他でもない「大量無差別殺戮行為」つまり、核ジェノサイドであったことを確認し、核ジェノサイドの原点であるヒロシマから、反戦、反核＝反原子力、反ジェノサイドを訴え、イスラエルによるガザ攻撃と不法なパレスチナ占領をやめさせることをテーマとした。

はじめに、開会あいさつを兼ねて「被爆・敗戦79年 ヒロシマから」をテーマに、被爆2世であり、福島原発告訴団・中四国事務局の私が発言した。

続いて、ピースリンク広島・呉・岩国 呉世話人、日鉄呉跡地問題を考える会共同代表の西岡由紀夫さんが、「呉を巨大軍事拠点にするのか 一日鉄呉跡地問題—」と題して発言された。

次に、広島市立大学国際学部教授で、広島パレスチナともしび連帯共同体の湯浅正恵さんが「広島市の“平和行政”の行方」と題し、発言された。

その後、在日韓国民主統一連合広島本部代表委員の尹康彦（ユン・ガンオン）さんが、「朝鮮半島の平和実現のために」と題して発言された。

この集会には、8月4～6日まで韓国から広島を訪れていた「広島原爆79年朝鮮人犠牲者追悼団」も参加された。追悼団を代表して、「壁を扉に！平和統一市民会議」のメンバーで、「統一の道」代表のチョ・ウォノさんがあいさつをされた。

Hiroshima Myanmar Community 代表のアウンチーミインさんが「広島に住むミャンマー人から日本に住む皆さんへ」と題して話された。

沖縄から寄せられたノーモア沖縄戦命どう宝の会共同代表、沖縄戦遺骨収集ボランティアガマフヤー 具志堅隆松さんからのメッセージ、福島から寄せられた福島原発告訴団団長の武藤類子さんからのメッセージが読み上げられた。

この集会のメインとして、広島市立大学教員で中東地域研究をされている田浪亜央江さんが、『『パレスチナ解放』と植民地主義の清算』と題して講演された。

2023 年 10 月 7 日にイスラエルによるパレスチナへの軍事攻撃がはじまり、10 月 13 日から毎日、原爆ドーム前において、即時停戦を求めるビジルが行われていること、この集会の数日前に、ハマスの指導者がイランで暗殺されたことにより、さらに泥沼になっていくこと、それに対して、具体的に私たちがいかなければならないこととして、植民地主義の清算をしていかなければならないことなどが訴えられた。

それぞれの発言を受け、「市民による平和宣言 2024」を提案し、採択された。8 月 6 日の行動提起をし、ピース・プロムナードで行う「グラウンド・ゼロのつどい」への参加が呼びかけられた。

最後に、ピースデポ、8・6ヒロシマ平和へのつどい元代表の湯浅一郎さんが閉会挨拶を述べた。

ピースプロムナードで

「グラウンドゼロのつどい」「追悼のダイイン」

8 月 6 日は、7 時から原爆ドームが見える広島ゲートパーク内のピース・プロムナードにおいて、「グラウンド・ゼロのつどい」が行われた。発言者は、西岡由紀夫さん、関西共同行動の古橋雅夫さん、南西諸島への自衛隊配備に反対する関西の会の根本博さん、首都圏の小倉利丸さん、ピースサイクル全国ネットの小田愉さん、田浪亜央江さん、韓国からの「広島原爆 79 年朝鮮人犠牲者追悼団」を代表して「統一の道」代表のチョ・ウォノさん、ミャンマーのアウンチー・ミインさん、支援をしている小武正教さん、「人民の力」の実国義範さん、アジェンダ・プロジェクト、上関原発止めよう広島ネットの渡田正弘さん、在日韓国青年同盟の韓誠宇さん。

そして、8:15 にはピース・プロムナードにおいて、「追悼のダイイン」を行い、8:40 頃、ピース・プロムナード南端を出発して、中国電力本社前まで、「8・6 反戦・反原子力・反ジェノサイド広島デモ」を行った。9:30 過ぎから、中国電力本社前において、「脱原発座り込み行動」を行った。



平和公園の外で、警官に囲まれた「追悼のダイ・イン」

8・6朝の原爆ドーム周辺の状況

私は、8 月 6 日は、6:15 から原爆供養塔前で行われる戦災供養会主催の「原爆死没者慰霊行事」に牧師として参列した。プロテスタント教会の窓口から「一般参列はできなくなりました。参列する牧師は事前登録するように」との連絡があり、「識別証」が発行された。

5:30 過ぎ、相生橋の北側から入場しようとしたところ、警察車両を斜めに停めて通行できなくしていた。慰霊行事終了後に元安橋を通った時に、元安橋でも同様に警察車両を斜めに停めて、通行できなくしており、警察権力によって、8・6の平和記念公園にこのような情景が作られることに怒りを覚えた。



相生橋の北側から市民が入れないように警察車両がふさいだ

昨年までは、「慰霊行事」には宗教関係者だけではなく、一般参列者も多く参加していた。しかし今年は、ほとんど一般参列ができない形で慰霊行事が行われた。広島市は「慰霊行事は規制しない」としてきたが、実際には、主催者も一般市民も委縮させられてしまう結果となり、甚大な影響を及ぼしていると言わざるを得ない。

原爆ドーム前は、前夜から「8・6 ヒロシマ大行動」が徹夜で集会を行い、8 月 6 日の午前 5 時以降も広島市や警察は警告をするだけで、集会が強行された。原爆ドーム周辺では、早朝から怒号が飛び交っており、そのような状況が造られたことに対して、一切の反省がないことに憤りを覚える。

そして、8:15 には、原爆ドームの周りでは、いくつかの子どもたちのグループが、ダイインを行っていた。そこで、私も原爆ドーム前で「一人追悼のダイイン」を行った。

このことから、結果的に、これまで長年、非暴力で、平和的に「グラウンド・ゼロのつどい」と「追悼のダイイン」を行って来た「8.6 ヒロシマ平和へのつどい」実行委員会と日本山妙法寺が原爆ドーム前から排除された形となってしまった。しかも、例年通り、平和記念式典中も「8・6 ヒロシマ大行動」などによって、大音量のデモは行われ、「音量問題」は何も解決していない。しかし、このことをきっかけに、被爆 80 年に向けて、さらに規制が強化されることがあってはならない。私たちの表現の自由を守るための取り組みを続けていかなければならない。

その中で、私たちがどのように被爆 80 年を迎えるかが問われているとも言える。全国各地の市民と連帯して、取り組みを行っていききたいと思う。

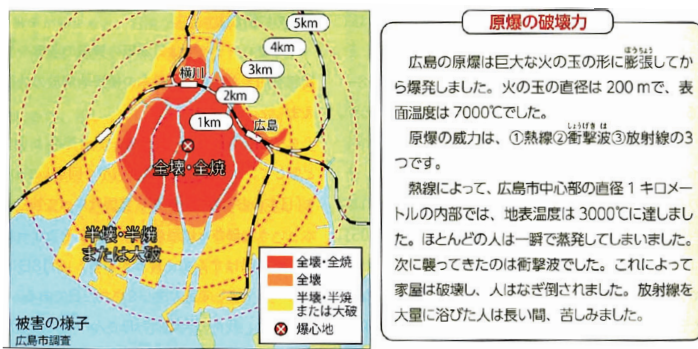
自由社の中学校歴史教科書の原爆記述は間違っている！

文科省の教科書検定はずさんだ！

岸 直人（教科書問題を考える市民ネットワーク・ひろしま）

はじめに

私たちは6月に今年度の中学校教科書採択に向けて歴史、公民、道徳教科書の比較分析調査を行い、調査結果を県市町教委に送付し、一般にも公開した。しかし、その後歴史分析チームが各社の「原爆投下記述」を見直したところ、自由社の以下のコラムの内容に間違い（誤記述）があることを発見した。



1. 自由社の誤記述

- (1) 原爆は巨大な火の玉に膨張してから爆発しました。
 - (2) 火の玉の直径は200m
 - (3) 広島市中心部の直径1キロメートル
 - (4) ほとんどの人は一瞬で蒸発してしまいました。
 - (5) 放射線を大量に浴びた人は長い間、苦しみました。
- 以上の5点について広島平和記念資料館（以下、資料館）に問い合わせたところ、

- A『広島・長崎の原爆被害』（編集 広島市長崎市原爆災害誌編集委員会 岩波書店 1979年）
- B『原爆放射線の人体影響 1992』（放射線被曝者医療国際協力推進協議会 1992年）

の2冊の文献を紹介して頂き、誤記述であることが確認できた。これらの資料に基づき、なぜ誤記述なのかを説明する。

2. (1)「原爆は巨大な火の玉に膨張してから爆発しました。」はなぜ誤記述なのか？

自由社は、「広島原爆は巨大な火の玉の形に膨張してから爆発しました。」と記述しているが、資料A-2に基づけば、原爆はまず「爆発」して「火球が膨張」したのであって、「火の玉（火球）が膨張して」「爆発」したという自由社の記述は順番が間違っている誤記述である。

資料A-2に基づきより正確に書くならば、「広島原爆は爆発した後、火球の膨張よりも速く衝撃波（爆風）が広がったと推定されます。」となる。また、用語の使い方についても資料Aを踏まえて「火の玉」は「火球」に統一することが、生徒が理解を進めるうえで望ましいし、資料A-1によればこの説明文は推定値であるので「推定されます」と表記するのが適切であると考えられる。

§2.2 火球の形成と熱線の放射

【資料A-1】P9

広島・長崎における原子爆弾の爆発は直接観測されてはいないが、アメリカではそれらとほぼ同じエネルギー（NTT20kt相当）をもつ原子爆弾（以下、標準原子爆弾と略記）を用いて実験を行い、日本の場合と対比しながら報告書をまとめている。（2c,3c）これによって原爆火球が形成される過程を簡単に描いてみよう。

ここでは、資料A-1で示される原爆の爆発過程に関わるデータは当時の爆発過程の観測データそのものではなく、米政府による「標準原爆実験」と観測データとを比較してまとめられたものだとして説明されている。

【資料A-2】P9

爆発直後のおそらく100万分の1秒以内では爆発点はセ氏数百万度の高温となり、0.1ミリ秒（1万分の1秒）後には半径約15m、温度約30万℃の等温火球が形成される。この時期には球の中の温度はほとんど均一と考えられ、衝撃波（第3章参照）の前面も火球の表面と一致している。

その後、衝撃波前面に鋭い圧力の壁が急速に形成され、それとともに、火球には中央の高温部分とその外側のやや温度の低い部分の2層が形成される。

しばらくの間は、火球は急速に膨張を続けるが、衝撃波はさらにそれよりも早く進行する。衝撃波の進行に伴って、火球外部の空気が熱せられ、それも発光する。しかし、この空気の温度は次第に下降して発光しなくなり、その層を透かして内部の高温火球が見えるようになる。このような時点を消散点と呼ぶ。標準原爆の場合、爆発後約15mミリ秒で消散点に達する。

下線は筆者

3. 「(2)火の玉の直径は200m」はなぜ誤記述なのか？

正しくは、火玉の直径は400m～500mである。その根拠は、資料A-2と図2.3によると、爆発後1秒後に火球の「半径」は200m～250mつまり「直径」は400m～500mになると推定されるからである。

4. 「(3) 広島市中心部の直径1キロメートル」はなぜ誤記述なのか？

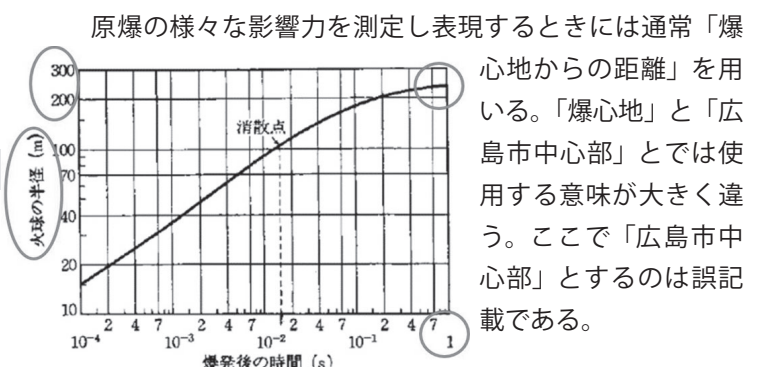


図2.3 火球の大きさの時間的変化(2a)

自由社の図表には「爆心地」が記載されているが「広島市中心部」は記載されていないので、正確な理解を進めるためには「爆心地の直径 1 キロメートル」と記載するべきである。

5. 「(4) ほとんどの人は一瞬で蒸発してしまいました。」はなぜ誤記述なのか？

資料 A (P61、62) には、

爆心地から約 1.2 キロメートルの距離にあった被爆者の死亡率はほぼ 50%と推定され、それより爆心地に近い地域では 80 ~ 100%の即日死があったと考えられます。

と記載されている。特に「一瞬で蒸発」とするという記述は、科学的な根拠のない記述である。科学的に考えれば人体は炭化することはあっても液体や金属のように蒸発したり溶融したりすることはないのであるからこの表現は明らかに誤りであり生徒に誤解を与える不適切な記述である。

このことについて、中国新聞社の特集記事「10 代がつくる平和新聞『ひろしま国』」を参考にする。

(47) 熱線で「人が蒸発」本当？

Q 爆心地近くで、原子爆弾の熱線を浴びた人が一瞬のうちに蒸発して消えてしまったって本当ですか。

A 跡形なしは考えられず

原爆資料館（広島市中区）には、影のように一部が黒くなった石が展示されている。爆心地から東へ約 260 メートルの旧住友銀行広島支店（三井住友銀行広島支店、中区紙屋町）入り口にあった石段。「人影の石」と呼ばれる。

地表面 3000 - 4000 度

「原爆が落とされたときその場にいた人の影だけが残った」「爆心地で直接閃光（せんこう）を浴びた人は、一瞬で蒸発して消えてしまった」。原爆資料館で展示物の説明をするヒロシマピースボランティアの大林芳典さん（80）によると、時々、修学旅行などで広島を訪れた子どもから、そう信じているという声を聞くそうだ。

「広島・長崎の原爆災害」（1979 年）（資料 A 岸註）によると爆発直後、約 30 万度の火の玉ができた。この玉から放射された熱線は爆発から 0.2 ~ 3 秒後まで降り注ぎ、爆心地の地表面の温度は 3000 度から 4000 度に達したと推定される。こんな状況だと、人間が蒸発するなんてことが起こるのかな。

広島大名譽教授の大谷美奈子医師（救急・集中治療）に聞くと、きっぱりと否定した。熱線で人体が一瞬で蒸発してしまうことは考えられないという。「熱線が体のどれほど深くまで到達したかは分からないが、人体は燃えたとしても炭化した組織や、少なくとも骨は残る」と教えてもらった。

また、放射線の影響でも皮膚にやけどのような症状が起きたり、ひどい場合には細胞組織が死んでしまい潰瘍（かいよう）になったりすることもあるが、「蒸発」することはないそうだ。



人影の石（爆心地から 260m / 紙屋町）
この石段は、住友銀行広島支店の入り口階段を切り出し移設したものです。銀行の開店前に腰かけていた人は至近距離で原爆がさく裂し、逃げるのができないままそこで死亡したものと思われる。原爆の強烈な熱線により階段は白っぽく変色し、腰かけていた部分が影のように黒っぽくなって残った。（広島市平和記念資料館総合図録 p29）

6. 「(5) 放射線を大量に浴びた人は長い間、苦しみました。」はなぜ誤記述なのか？

資料 B によれば、原爆による人体への影響には、被爆直後に現れる「急性障害」と、年月を経て発症する「後障害」がある。「放射線を大量に浴びた人」には直後に死亡した人も多数いる（急性障害）が、長年後遺症に苦しんだ人も多数いる（後障害）ことを理解する必要がある。そして、「放射線を大量に浴びた人」はみな「長い間苦しみました」という説明は、生徒に誤った認識を与える誤記述である。

7. 今後の取り組みについて

広島市教委の中学校教科書採択は 8 月 28 日であり、それまでに正誤を確認し採択に反映するべきだと考え、7 月 26 日に自由社の原爆記述の誤記述を指摘し、広島市教委として確認し至急回答するよう要請した。また、県教委及び県内 19 の採択地区の市町教育委員会にも同様に確認を要請する文書を送った。すると広島市教委から 8 月 27 日に次のような回答が来た。

「教科書検定は国が適切に実施しているので、広島市教委は市民から指摘のあった部分（自由社の誤記述）について、文科省から訂正などの連絡があったら必要に応じて適切に対応することを、県教委と協議して決めた。」

原爆被害に関する子どもの認識に強く影響を与えることなのだから、広島市教委は被爆地の市教委として市民から指摘された問題について間違いかどうかを確認し速やかに文科省に対応を求めるべきであるにも関わらず、教科書検定制度を盾にして文科省の連絡を待つという。教育委員会は文科省の出先機関ではない。私たちは今後国会議員を介して文部科学大臣に同様の要請書を出すことにしている。自由社の誤記述は科学的な研究資料に基づかない杜撰な誤記述であるから本来は文科省の教科書検定で修正意見が付くべきものだった。誤記述を発見できない教科書検定自体がいかに杜撰で精度が低い仕組みかということが逆に明らかになったといえる。今回の問題は、自由社の問題でもあるが、教科書検定制度の問題でもある。また、古くは扶桑社、その後の自由社、育鵬社そして令和書籍のような憲法、近隣諸国条項、河野談話を否定する教科書を次々と検定合格させてきた文科省検定制度の在り方を厳しく批判し追及して、次世代が適切な認識が持てる教科書で学べる制度設計にしていくきっかけとすべき問題だと考える。



米軍岩国基地周辺からも、PFASが検出された！

ベテランズ・フォー・ピース（VFP・平和を求める元軍人の会）日本ツアー岩国集会

新田秀樹（ピースリンク広島・呉・岩国世話人）

元軍人らで構成され米国を中心に活動し、世界中に約 8000 人、140 支部があり、国連 NGO にも認定されているベテランズ・フォー・ピース（VFP 平和を求める元軍人の会）日本ツアーが今年 8 月に行われ、横田、横須賀や沖縄など軍事基地のある街を中心に全国各地で講演会が行われた。

8 月 20 日には「岩国で元軍人が平和を語る」と題して岩国市民文化会館でピースリンク広島・呉・岩国が主催し、岩国基地の拡張・強化に反対する広島県住民の会、瀬戸内海の静かな環境を守る住民ネットワーク（瀬戸内ネット）の協賛で開催した。



1 ヶ月近い日本ツアーには米陸軍元大佐のアン・ライトさん、元米海兵隊中佐マット・ホーさんも予定されていたが、今回はビデオメッセージでの登場になった。

マット・ホーさんは日本の外務省にあたる国務省でイラク、アフガン戦争に関わってきた。冷戦後の 30 年、米国が軍事力と経済力で事実上世界を支配してきたが、代理戦争ともいえるウクライナでは米国（＝NATO）に同調する国は 50 カ国にすぎず、クリントン政権以降、威嚇を続けてきた中国は急成長して逆に米国の脅威になっている。もはや米国だけではこれまでのような政策は取れないことから、今後よりいっそう最前線の日本に対して軍事的要請を続けると警鐘を鳴らした。

アン・ライトさんはガザへの支援活動にも取り組んでいる。今回その活動で忙しく、急きょ訪日を中止したためビデオメッセージとなった。質問に答える形でガザへの支援活動の困難さや、自衛隊と米軍の一体化、米軍基地がもたらす事故や騒音についても言及し米国内ではありえない訓練を在日米軍は行っている。本国では民家のあるところで訓練しないし基地もない。日米地位協定がもたらす弊害であり、後を絶たない米兵犯罪についても本来公表を渋らず厳しく処罰するべきだと軍を断罪した。

パット・エルダーさんがメインで報告をされた。彼は民間の VFP 協力メンバーで軍事基地の環境汚染を告発している。今回のツアーのコーディネーターを務めるレイチェル・クラークさんが通訳として講演を行った。今回のツアーの前にサイクロン・ピュア社という米国では公的にも利用されている会社から提供された検査キットを使い全国 40 カ所で PFAS（有機フッ素アルキル化合物、注1 参照）の水質検査を行った。5 月 22 日、岩国基地で泡消火剤を使った消火訓練が頻繁に行われている可能性のある南側の門前川河口付近と基地内の遊水池から流れ出る北側の今津川河口付近で採取した水のサンプルから PFOA（ペルフルオロオクタン酸）と PFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）の合計が 50ppt（l/ng 水 1 l 当たり 10 億分の 1g）という日本の基準値を超える 89.3ppt が検出された。PFAS 全体では 148.9ppt という高い値が出ている。

（注1）PFAS とは PFOS、PFOA など約 1 万種類ある有機フッ素化合物の総称で人体や環境に対しての有害性が指摘されており、世界的な環境問題になっている。熱に強い、水や油を弾く、燃えにくい、汚れを防止する等の特徴があり、身近なところでは、焦げ付きにくいフライパンの表面処理剤、泡消火剤などに使用されています。発がん性などが指摘され、米国では PFOS、PFOA それぞれ 4 ppt 以下の基準値を設け、日本では PFOS、PFOA の合計値 50ppt 以下の暫定基準値を設けている。

Barcode	WTK PFAS_8688
Name	Pat Elder
Location	Iwakuni, Yamaguchi 740-0025
Comments	Imazugawa River , 34.1594222 N , 132.2483660 E
Filtration	Unfiltered
Sampling Date	5/22/24 14:30
Order Number	15985
PFBA	< 1.0 ppt
PFPeA	2.4
PFHxA	6
PFHpA	2.7
PFOA	25.9
PFNA	2.4
PFDA	< 1.0 ppt
GenX	< 1.0 ppt
PFBS	1.7
PFHxS	27.5
PFOS	63.4
Total PFAS (11 Compounds)	132
Additional PFAS	
10:2 FTS	< 1.0 ppt
4:2 FTS	< 1.0 ppt
6:2 FTS	4.4
8:2 FTS	< 1.0 ppt
FBSA	1.1
FHxSA	7.6
PFHpS	1.5
PFPeS	2.3
PFPrS	< 1.0 ppt
Total PFAS (All Detected)	148.9

米軍岩国基地そばの今津川河口付近 指針超えPFAS検出

米平和団体調査で判明

米軍と海上自衛隊が共同で使う岩国基地（岩国市）そばの今津川の河口付近で、発がん性が指摘



米軍の平和団体の調査でPFASが指針値を上回った調査地点。奥は岩国基地の滑走路

去年は VFP の岩国での講演はなかったものの、日本ツアー中に広島にも立ち寄り、9月30日、岩国基地周辺での取水に立ち会った。今年同様2か所でサンプル採取を行った。この時は遊水池の水をくみ上げ、今回同様サイクロン・ピュア社に送ったものだがこの時は日本の暫定基準値以下の34.6pptであったため、中国新聞記者も同行したが調査を行った記事だけでその後は記事にはならなかった。しかし、PFAS全体では51.2pptであり、安心できる数字ではない。

パットさんは、PFASの発がん性など人体に与える多くの健康リスクを強く指摘された。PFASは半導体工場など民間企業周辺で多く検出されているが、軍事基地関連では泡消火剤による消火訓練、航空機エンジンの洗浄などで大量のPFASを含む物質が使われている。実際、横田基地、三沢基地、嘉手納基地や普天間基地の航空基地周辺で高濃度のPFASが検出されている。また、広島県でも東広島市の米陸軍川上弾薬庫の下流の瀬野川水系で高濃度のPFASが検出され、市が国に要請するなど対応を迫られている。今回の東広島のVFPの調査でもPFOS 132.2ppt、PFOA 2.5ppt、トータルPFAS 190.5pptという極めて高い数字が出た。

VFPからの要請でぜひ岩国で講演会を開催したいという希望もあり、平日夕方という参加しにくい条件でも20人余りの人が参加した。大竹市議会議員や岩国市の関係者の姿もあったが多くの人にPFASの環境問題にも関心を持ってもらいたいし、私たちの取り組みも必要になってくる。今回の集会には中国新聞をはじめテレビ各社も関心を示し報道したが、報道によると山口県は「今回の調査方法も分からない」「県として調査するつもりはない」とコメントを出しており、後ろ向きな姿勢は到底許されない。

パットさんの話の中では今回は水の調査だけだが、底にたまっている泥にはもっと高濃度のPFAS汚染がある可能性があるとしている。PFASは自然界では分解されにくく、魚などを通じて食物連鎖が起きる。PFOSは魚の肝臓や血液に濃縮されやすく、PFOAはエビなどの甲殻類や貝類などで濃縮されやすいという。重い課題であるが取り組まなければいけない問題である。



「I・ピース」(VFP)が調査。PFASの代表的な物質であるPFOSとPFOAの合算値が基地北側の今津川河口で1ppbあたり89・3ppbと指針値を上回ったという。基地南側の門前川では検出されなかった。指針値を超えた今津川河口は、岩国基地そばの遊水池の水が海へ流れる地点。遊水池は基地や周辺の排水、雨水が流れ込んでいる。

PFASはかつて米軍などの泡消火剤やエンジン洗浄に使われ、日本ではPFOS、PFOAとも製造、輸入が2021年までに原則禁止された。防衛省によると、米軍岩国基地はPFOSを含まない泡消火剤への交換を22年12月までに終え、焼却処分したと説明している。海自岩国基地は今年9月末を目標に処理を終える予定。

VFPは今年5、6月、日本各地の市民団体の協力を得て在日米軍や自衛隊の基地周辺40カ所で水質調査を実施。岩国基地を含む12カ所でPFASが指針値を超え、東広島市の米軍川上弾薬庫近くの瀬野川では1ppbあたり134・7ppbだったという。VFP準会員のパット・エルダーさん(69)は「基地が発生源の可能性がある。危機感を持って対応すべきだ」とする。



コーディネーター兼・通訳のレイチェル・クラークさんとパットエルダーさん

8月22日の中国新聞

今、米軍岩国基地は東アジア最大の軍用機が所属する航空基地でもある。米軍及び自衛隊はPFOS、PFOAを含む泡消火剤は使っていないとするが、実体はわからない上、他のPFASを含む消火剤に変更した可能性も高い。今回も同行し短い時間の報告にもなった元海上自衛隊出身のVFPジャパンの終身会員で共同代表のの形川健一さんは岩国基地勤務経験こそないが、同様の航空機の整備をしてきた。エンジン洗浄には物質名はわからないが大量の薬品を使っていた。皮膚を防護するために雨合羽で完全装備での作業だったと語る。

今回のツアーがVFPに対する世界中のカンパで行われていることにも感謝したい。コロナ禍で一時中断されていたが日本ツアーは毎年開催されている。来年はより多くの人にこのような話を聞いていただきたい。

「戦争の準備をするな！」 8.6 新聞意見広告 2024 を掲載しました！

32 回目の 8.6 新聞意見広告を朝日新聞朝刊全国、中国新聞に掲載することが出来ました。
命・尊厳を守るための様々な課題を共有し、政治的、思想的立場にこだわらず幅広い人々
とのつながりで 4,500 を上回る個人・団体（8.30 現在、匿名含）のご賛同を頂きました。
皆さまのご支援、ご協力に、世話人一同、心より感謝申し上げます。（藤井純子）

ミサイルよりも〇〇〇を… 今必要なことは武力じゃない。武力では何も解決しないことは、皆さんも日ごろからよく考えていらっしゃるのだと思います。ですから 700 を超える「〇〇〇を」が寄せられました。人々が平和に人間らしく生きる、そこが共通しているなぁと思いました。

また大軍拡・改憲反対のみならず、災害、農・環境問題、人権・差別などのメッセージも寄せられこの会報ではお名前も載せ様々な課題を皆さんと共有したいと思いました。一人でも多くの人と繋がりあう場に！（p15～22）

新しいつながりに感動 …… 島村真知子

8 月 6 日の朝、新聞を広げ、私たちの意見広告の紙面を見て「今年も掲載できた」という達成感で嬉しさがこみあげます。一方、また何か間違いがありはしないかと、不安が頭をもたげてきます。でも、8.6 の意見広告を見てくださった方からの賛同には、新しい大切なつながりができたという嬉しさと感動を覚え、頑張ってたかったなとしみじみ…

会計から …… 西浦紘子

今年の夏も 8.6 新聞意見広告に 4274 もの個人と団体の皆様から賛同いただき感謝いたします。今年の特徴としては「ミサイルよりも〇〇〇を」という呼びかけに実に多くのメッセージが寄せられたことだと思います。私たちには武器弾薬よりも大切なものがこんなに沢山あるのですよね。このことを権力者は知るべきです。諸物価高騰の折で自身の必要を抑えてでも賛同金・カンパをお寄せいただいたことに心より感謝申し上げます。

「ミサイルよりも〇〇〇を」 …… 大道美代子

2024 年の新聞意見広告は、「戦争の準備をするな」という大きな見出し、本川と元安川に挟まれた旧中島地区の生活を表現したデザインが、4274 人の賛同金によって掲載されました。私は、この活動に参加してまだ日が浅いのですが、大切な生活費や将来のたくわえの中から「わずかですが…」と振り込みをしてくださる方々の気持ちを思うと、どうかこの広告が多くの人目に触れて多くの人の心を動かしてほしいと願わずにはおれません。

世界中あちこちで争いが絶えない世の中ですが、みんな平和を願っているにちがいありません。ただ、そのために軍備が必要だと思っている人にも、私たちの思いが何とか届かないかと、紙面の「ミサイルよりも〇〇〇を！」の部分を読み返しています。私もじっくり視野を広げられるよう学んでいきたいと思っています。

爆心地にも人々の営みが… 石岡真由海（紙面制作者）

この一年、戦争下の日常生活を知る機会が多かった。中でも、中国新聞ヒロシマ平和メディアセンターの「平和記念公園（爆心地）街並み復元図」には言葉を失った。2000 年に制作された労作だが、恥ずかしながら凝視したことはなかった。旅館がこんなにあったのか、靴屋が多いな、小児科が多いのは産めよ増やせよの時代だな…。一軒一軒店舗を数え、一覧表にしてみたとき、街が目の前に立ち上がってくるような感覚だった。同サイトで「世界中から観光客が訪れる広島市の平和記念公園。昔から公園だった」と思い込み、家がなかったから原爆の被害が少なかったと誤解する人もいます。」という一文を目にし、危機感が高まった。沖縄米軍基地にも同じデマがある。これは掃いてしまいたい。「過ちは二度と繰り返させぬから」との約束を果たすため、数字が表す客観的事実を伝え「戦争の準備をするな」の一文を大きく掲げ、戦争できる国への準備を進めさせない意思を込めた。

◆お名前の掲載… 掲載名簿作りのため今年も、エキスパートの皆さんと共に名簿整理をしました。字や読み、掲載可・不可、住所などを個票と入金リスト、会報送付用の名簿と照らし合わせて確認しました。掲載名簿ができてからもダブリなどのチェックをし、紙面に載せてからも何度も何度も校正して確かめました。それでも不備があるでしょうが、ただただ申し訳ありませんと重ねて謝罪をするばかりです。

▼締切以後の賛同団体・個人、再カンパの方々（敬称略）

堀隆一、向井好美、大島一洋、井上豊、岡崎隆、沖和子、川上久美子、保土田政子、石井喜代子、井上由美、対馬朝子、渡部美喜夫、小田豊隆、前田礼子、栗原彬、谷口正光・谷口羊子、池田利男、村上世志子、納谷ヒロ子、西浦昭英、中市後千秋、沖本郁子、石橋眞喜子、梶原広継、藤野美津子、小平真理子、小林恵、紺田亮・かおり、小川桂絲香、西崎いづみ、武田達城、松本峰人・松本道子、ホリアキラ

ほか 名前掲載不可 2 人

▼8.6 新聞意見広告掲載以後の賛同、再カンパ団体・個人

山本えり子、蔵隆司、杉岡正敏、室賀友之、センソウハントイ、阿部洋子、今岡立身・淳子、沖武重、石堂文子、蒲田治子、清水英学、長谷川民子、大友喜味雄、小田弘平、長塚敬子、前山賢、元町憲法 9 条の会、安部逸雄、名前掲載不可 2 人

会 計 中 間 報 告

(2024 年 8 月 25 日

会計：西浦紘子)

収入の部

支出の部

賛同金+カンパ	10,540,537 円	広告料、紙面制作、チラシ印刷、発送料、カラー版印刷、ハガキ他	合計	10,785,739 円
---------	--------------	--------------------------------	----	--------------

▼ 不足額 245,202 円は本会計（会費）から補填します。

今年の 8.6 新聞意見広告も、購読されている 9 割近くの方々にみて頂いた。「戦争の準備をするな」という少し強いタイトルだったからか、大軍拡、憲法、9 条についても多くの感想が書かれている。「毎年この意見広告を見て意義を感じる」「夏だけでなくもっと掲載すべき」「続けてほしい」… 戦争する国への危機感が強まっているのだ。改めて皆さんに感謝！！

まわりの方々から (ほんの一部) -----

- ・「戦争の準備をするな」というキャッチコピーが最高。(広島) ストレートな言葉の力が刺さり、中島地区の説明文が迫る。
- ・何か気になる、胸に残る、ただならぬ意見広告だと思いました。色が目に飛び込んできて混沌とした川が目に見えるよう。
- ・一つひとつの数字をたどりながら、79 年前の 8 月 6 日 8 時 15 分までの世界を想い、同時に 79 年後のこの国の厳しい現実を考えさせられる。でもメッセージに希望を感じ力づけられます。
- ・「戦争の準備をするな」に、まったく同感です。
- ・朝日の一面広告見ましたよ！「戦争の準備をするな」すごいインパクトのある言葉ですね。お店屋さんの数を見ながら、その時代の町をいろいろ想像しました。(三原から)
- ・今日 8 月 6 日、朝日新聞を買ってきました。新しい切り口！元安川の流れに沿って・・・あの日の家々が生活が見えてくるようで・・・とても感動しました。(伊勢から)
- ・朝日新聞朝刊をめくると斬新な意見広告が目飛び込んで今年の広島はコレナンダ！！いいですね。世界中で広がる戦争と暴力に対して、非核と平和憲法は有効です。(東京から)
- ・「戦争の準備をするな！」声を大にしておたがいにがんばりましょう！お疲れさまでした。(広島)
- ・素晴らしい広告を有難うございました。本当に今、政府の言う通りにしていたら確実に戦争させられると思います。
- ・沖縄の人たちを避難させる訓練をしています、有事には結局民間人を犠牲にします。第 9 条を生かすも殺すも国民一人ひとりの活動です。私も頑張ります。(東京)

29 歳以下 -----

- ・説得力があり戦争について考えさせる広告だと感じた。男性
- ・突き刺さるような強い文言の広告。色彩も、すごく目を引き、印象に残る。男性
- ・こうしたところからコツコツ訴えていくのが大事だとこの広告をみて改めて思った。男性
- ・日本の平和を守るためには 9 条の改憲は絶対止めなければならない。その取り組みを広めていくべきだと感じた。男性
- ・広告の隅から隅まで使ってたくさんのことが書かれていてインパクトがすごいと思った。女性
- ・広告賛同人の名前の羅列が強く印象に残った。左側の数字を強調した文章が目を書いて関心を寄せやすいと思った。女性
- ・原爆の日に合わせて広告だと分かる。しかし戦争反対の主張と共に各々の主義主張も掲載されていて残念だった。女性
- ・印象的な文字や数字太字でより興味を持てた。女性
- ・目立つ 8 月 6 日にだけ考えるのではなく、いつも心の何処かに思っていたい。最初の一行が響いている。女性

- ・賛同された多くの方の声が載っていて訴えかけられた。声をあげることは注目につながるが、新聞を読まない人には届かないのが残念。もっと歴史について知りたいと思う。女性

30 歳代 -----

- ・とても印象に残った。数字だと想像しやすく、わかりやすい。挑発的とも言える力強いキャッチコピーが心に刺さり、小学生の息子も目を止めていました。女性
- ・戦争放棄、改憲反対は理解できるが戦争準備＝防衛までしなくてよいのか？ロシア、中国、北朝鮮のトップをみると防衛は必要ではないか。無抵抗で三国の一部になるのは嫌だ。男性
- ・広島県出身者にもかかわらず知らなかった。原爆・平和について考えていきたい。男性
- ・夏だけじゃなく、他の時期にも定期的に出して欲しい。女性
- ・主張することは必要であり続けていくことも大事だ。男性

40 歳代 -----

- ・改憲が戦争の準備に繋がるとは思わない 男性
- ・原爆の日にあらためて戦争について考えさせられた 女性
- ・戦争とは何かというのを改めて感じた。いろいろと考えさせられる広告であった。男性
- ・街並み復元図とそこに書かれた文章から被害がいかに甚大で広範囲だったかが良くわかり生々しさが伝わる。改憲、核兵器、原発などの諸問題に目を向ける良い機会に思う。男性
- ・左の部分を読んだら涙が出た。原爆は虐殺兵器だ。まさに。戦争の準備をするな！まさに。女性
- ・広島原爆投下の日、日本に住んでいれば忘れてはいけな大切な日の一つであり、子どもに語り伝えたい。女性
- ・このように発信し続けることが大事だと思います 女性
- ・立法院の方々にぜひ見ていただきたい。女性
- ・原爆についてあまり TV でも取り上げられなかったような気がします。忘れてはいけな。広島の日と長崎の日。女性
- ・広島、学生時代には授業で学び、修学旅行の課外学習で原爆資料館へも行きました。戦争の恐ろしさ、原爆の恐ろしさ、忘れてはいけななどが伝わってくる広告だ。女性
- ・政府は核なき世界と言いつつ、結局は憲法を変えようとしていて、言ってることとやっていることが合わない。すごく共感持てる広告でした。女性
- ・毎年この時期に見る広告であるが、長年にわたり広告をしていてとても印象に残る。女性
- ・「8 月 6 日にこの広告は大きな意味があると思います。「戦争の準備をするな」という大きな文字にドキッとしました。広島地図と、具体的な数字、たくさんの個人や団体のお名前。とても印象に残る意義深い広告だと思います。女性

50 歳代 -----

- ・声を上げることがだいじなのだと思う この日だけでなく載せてもいいのではと思う 女性
- ・様々なデータで当時の様子を知らせる面白い企画だと思う。人々の生活がそこにあったことが、ありありと浮かんでくる。女性



- ・忘れてしまいがちな日常にこうした意見広告があって良い。 男性
- ・毎年巡ってくる戦争悲劇の記憶 それなのになくならない戦争。どうしたら世界が平和になるのか？ 安心安全に暮らせるのか？被害を受けるのは一般市民。やるせない怒りしかない。 女性
- ・今年も、また8月6日が来たのかと思う。戦後79年もたつのに、いまだに原爆で苦しんでいる方々の回復を願う。個人・団体名を掲載する必要はない。文字も小さく名前を見ることもない。
- ・憲法第9条はこれからもずっと守り続けられることが必要だと思うので、第九条の会の活動が多くの人に周知されると良い。原爆の日だけに終わらせず、不安定な世界情勢の中で日本も戦争に巻き込まれる危機感を自分事として考えるような記事を載せて欲しい。女性
- ・現在の世界の状況を考えて、第九条の会ヒロシマのこのような発信はとても意味があると感じる。 女性
- ・毎年この暑い時期に必ず触れ忘れることの出来ない原爆投下です。繰り返す事のないように、活動する事、考える事は大変重要だ。そして戦争の結果、敗戦した事実でもあり第9条の重要性は計り知れないものだとして改めて痛感した。ただ米国の指示による兵器の作成や提供、若者の出兵の可能性に危機感は常に感じている。 女性
- ・いつもの反戦の広告と違い、印象に残りました 女性
- ・今日広告を出すことに意味がある。普段は忘れがちでも今日だけは戦争について考える大切な日であり、犠牲となった方々を悼み、反戦を訴えていかなければならないと改めて思った。 女性
- ・広島原爆の日には載った広告なのでじっくり見た。実際がどのような広島だったのかがよくわかり原爆の恐ろしさを実感した。 女性
- ・ウクライナやパレスチナの報道で戦争が今の時代でも起きていることに心痛む。日本は未来永劫、戦争をしない国であって欲しい。女性
- ・世の中、理想と現実のギャップを改めて感じさせられた。 女性
- ・大変インパクトがあり、自分自身も共感する部分があった。こういう活動をして今後も続けて欲しい。 女性
- ・戦争が風化されている気がする。忘れてはならない。 女性
- ・いつも矛盾していると思う2つ。1.被爆国なのに核兵器禁止条約に日本は不参加。原爆を落とした米国の核の傘の下に居ること。2.どの国も軍拡を一斉に止めたら社会福祉にお金が回るのに。 女性

60歳以上

- ・原爆投下以前の平和な市民生活を一瞬で壊してしまった原爆がどんなに恐ろしいものかを訴えることは、戦争を知らない世代に悲惨さを身近に感じて考える機会になると思う。女性
- ・現状では戦争に向かうかと思われるが近隣諸国を見ればしかたないかとも思える。戦争を2度としない仕組みを作るにはどうすれば良いのか真剣に考えるべきと思う。 男性
- ・他国との紛争解決は平和的な対話では無理で武力で圧力をかけるしかないという風潮がはびこっているのは悲しい。最後まで戦争反対の気持ちを持ち続けていたい。 男性
- ・こんな人間の本質を問う広告は尊い。真面目に正しいことを正しいと発信する広告が必要だと思う。嘘で言いくるめ自分を正当化する政治家に読ませたい。特に広島出身の首相に。未だ日本は核廃絶の署名に後ろ向きで原爆で亡くなった方はどう見るだろう。報道関係者にも一石を投じる広告だ。男性
- ・研究者も憲法第9条第2項改正の必要性を発する時代が来た。新聞中立性から考え、改憲の意見広告努力を。 男性
- ・核兵器廃絶の方向性は賛成です。ただ、改憲は別のもので憲法は全体的に議論するものだと思います 男性
- ・戦争により亡くなった方々が沢山いることを感じた。男性
- ・原爆投下された日の広島との79年の歳月と自身との「様々な距離」は理解の上でも、愚かしい戦争への反対の思いは持っているつもり。学徒出陣から特攻隊配属後も生き延びた父、大空襲の怖い経験をした母の言葉で聞いてきた疑似体験あれど、実体験された方々との思いの重さには差があると思う。日本や各国の指導者・政府・政治家等々に再考してもらいたい8月6日であり、8月9日の過ちである。 男性
- ・正しく今の状況（防衛費二倍化、地位協定そのまま、兵器の大量購入、米軍による自衛隊統括化など）は、戦争の準備に間違いはない。具体的行動をしている方々に敬意を表する。男性
- ・改憲に反対する広告。自分も反戦派なので良く解る。4,274の賛同で掲載されているが数の少なさに愕然とした。男性
- ・賛同者の数の多さに驚く。 男性
- ・主義主張を広告の形で表明できるのはいいことだ。 男性
- ・憲法の手を守るという主張には賛同できるが、国を守るにはという視点に欠ける広告と感じる。 男性
- ・小さくて読みにくいが、個人・団体名が一番インパクトがあり、こんなにたくさん関心を持つ人がいるのかと思う。 女性
- ・今まで普通にあった場所が一瞬でなくなるなんて恐怖でしかないです。それが原爆・戦争なんですね。 女性
- ・胸に突き刺さる言葉の数々… 世界中の人に届けたい。女性
- ・一番目に引いた広島地図で、原爆投下まで普通の市民の暮らしがあったことに今さらながら気づかされた。戦争の非情さ、残酷さを伝えるこんな広告は今まで見たことがない。 女性
- ・戦争の記憶が薄くなり、普段から戦争の事を思う事がなくなっている中、この時期に平和憲法の意見広告は大切だ。 女性
- ・戦争知っている世代が少なくなり、自分ごととして感じられず、他国の無関係なことと思ってしまわぬよう平和を意識し続ける報道、行動が重要だ。 女性
- ・文章が心に響きました。時間が経つと薄れて今回この広告を読んで自分が恥ずかしくなりました。この広告をマスコミもネットも取り上げて欲しい 女性
- ・数字を使ってあの場所の生活をよく表現している。 女性
- ・現在の日本政府の動きに対して、この大きな言葉が重みを持って迫ってくる。原爆は虐殺兵器だ。頼るまい。使わせまい。政治家も国民も自分事として立ち止まって考えるべき。女性
- ・日本は今新たな戦前を迎えている。基本的な国政を蔑ろにして国防費を増大させ、米に媚びへつらいとても歪んだ国になっている。日本は先進衰退国なのである。 男性
- ・どうしても第二次世界大戦絡みについては目を逸らしてしまう自分がいて、今後も避けて通りたいと思ってしまう。女性
- ・平和記念公園がある場所は昔から公園だったわけではなく、人々が生活を営む場所だったことは今広告で初めて知った。8月6日の8時15分までは様々なお店や建物や人々が生活する普通の場所だったことを教えてくれたこの広告は本当に胸に突き刺さる 少し怖くてもちゃんと読んでほしい。女性
- ・一年に一度この事を考えるのではなく常にすぐ傍にある危機として考えていかないといけない問題だと考える。 女性

会員さん 8.6 新聞意見広告 24 に賛同して下さった皆さんからのメッセージ



1月

奥下厚子 九条が風前の灯になりませんように
 松本正次 10月4日は私の誕生日。なぜ国民の祝日にならないのか
 児玉祥功 プーチンやネタニヤフのような蛮行を許すまい
 國貞守男 NO MORE WAR WE LOVE PEACE
 今野洋子 泣いている人がいる間は私は幸せではないと感じる
 富矢伸史 全世界から「戦争」をなくし「平和な生活」を取り戻そう
 田村栄子・和之 9条までもれ！
 宗近弘武 民の暮らしを守ることが政治の使命。金と力にまみれた現政治を立て直す責任は私ども民にある！
 鈴木哲朗 真実一路平和
 西村義孝 戦争前夜止めましょう
 田丸昭・充子 お互いが信じられる世界を目指そう
 曾我了二・弘子 それでもやっぱり憲法九条
 吉田耕太郎 「第九」と「九条」は平和の申し子
 戸野寿美江 軍備よりは災害対策を！
 板谷完二 政権交代を
 鵜飼礼子・鵜飼真一郎 ミサイルよりも温暖化防止策を！地球上の生きとし生けるものの未来のために
 生田千津子 原爆・原発廃止、未来の世代へ悪は残さないようにしよう
 小林義朗 軍事では「命と安全」は守れない。対話と外交力の強化を！

2月

中山誠一 非武装で平和・環境・人権先進国コストリカを見習おう
 遠山睦子 憲法第9条の通りに歩もう 未来の子どもたちのために
 渡辺栄子 人類は何をしてどこへいこうとしているのか、心をえぐる思いですが、会報から勇気と希望を頂いています。
 岩下健一 「今こそ9条を活かす時です」と繰り返し言いたい。
 大野芳 九条は日本の宝です。
 松井久治・松井昌重 ノーモアヒロシマ ネバーギブアップ
 渡辺吉男 今こそ必要なものは憲法第九条です
 大林トヨ子 世界中の紛争・戦争がなくなるよう連帯しましょう
 山今彰 自民の裏金、直近5年だけでなく、すべてを明確にせよ！
 原田健・岡本博美 「防衛産業支援法」は国民を戦争に巻き込む最悪の法律！総力をあげて廃棄しよう！！
 廣澤利幸・ふく 新潟に住んでいる。柏崎羽原原発再稼働をとめたい。
 松浦賢治 なし崩しの改憲、武器輸出の際限ない拡大にストップ！
 池田垣二郎 憲法改憲反対！！
 檜垣順子 断固改憲に反対します
 竹腰英樹 今こそ平和を！そのための政府を自治体をつくろう！
 本多訓 私たちと私たちの子孫のため、この運動に賛同します。
 武智邦代 日本のひどい政治を何とかならないか

3月

牧野正博 戦争は双方が傷つきます。ぜひ話し合いを！
 下末かよ子 核抑止ではなく核廃絶を！
 岩本恵子 継続は力なり
 鈴木聖幸 今年もあきらめず声をあげましょう。伝わるといいな！
 山口広 自公政権（＋維新・国民）打倒！！
 伊達工 ロシアはウクライナから出ていけ
 高田由美 自衛官らの靖国神社への集団参拝に反対。靖国神社の新たな宮司に海上自衛隊の元海将が就くことに反対。

4月

西村善次 ヘイワを！
 佐藤晶子 食べ物を！
 仲宗根将二 軍拡より九条による平和外交を！
 石井隆 外交力を
 梶原浩子 災害支援・外交交渉を！
 佐藤純子 日本を戦争する国にさせない
 西原孝夫 医療と教育にお金を！
 小泉秀輔 教育と防災を
 近本江吏子 教育
 小幡正 子どもや若者の国際交流
 東邦弘・東光子 笑顔の握手
 市場恵子 話し合いを
 山本勉 核禁条約だぞ
 前澤伸好 子どもにごはんを！！
 國貞守男 RESPECT
 佐伯三枝子 くらしを守れ
 畑真理子 命
 森進 平和

門屋俱代 対話
 山本俊彦・山本尚子 食料
 西村清登 くらしを
 武田好水 平和こそ希望
 島田義国・偕子 助け合いを
 渡辺安人・渡辺裕 おコメを
 オゴセテツオ・タケコ ミサイルヨリモ、ケンポウニモトツクヘイワガイコウデ
 高野年弘 対話による平和を！
 本間正明・本間裕子 教育・医療の無償化を
 村下範子 たいわ
 加藤正子 へいわ
 市川啓子 外交力を
 兼崎正英 武器を捨て自衛隊を災害救助隊に
 福澤清和 軍備では国民を守れない！！
 市井晴也・希 ミサイルよりも平和のための対話
 柳つとむ 核はいらない！人は殺さないで！
 高磨眞佐子 すべての人たちが飢え・恐怖・貧困がない世に
 中川了之・中川いのり 教育にお金を
 山下昭子 教育費を
 川本正晴・川本咲枝 朝起きたら戦争が始まっていた
 ミサイルよりも教育文教予算を！野辺山天文台の実情を見よ！
 吉井秀貴・吉井恵子 平和
 阿部良之 裏金を作る。説明責任を果たさない。武器輸出を企む。そんな政治家はいらない。
 鎌田清 ミサイルよりも教育に！
 小松克己・小松美城子 ミサイルよりも教育費を！絵本を！
 濱中康子 ミサイルよりも食料自給率向上、食えないミサイルは人命を奪う
 藤井石根・中小路かつ子 ミサイルよりも平和外交を
 主演学 ミサイルよりも医療と食料そして暮らしを
 梶原義行 自衛隊は災害救助隊に
 高山徹 武力で平和はつくれない
 亀田康子 軍備は攻撃される格好の材料、憎悪のタネ
 「言論」に優る「武器」はない
 峰村富士雄 ミサイルよりもゴーヤ
 井上聖文・井上由美子 ミサイルよりも給食を（井上聖文）、対話による平和を（井上由美子）
 吉村由紀子 平和を
 田中正和 公教育の無償化を
 高桑次郎 笑がお
 加藤美智子・加藤裕二 真摯な対話を
 柳沼吉孝 安心できる老後を！
 中仁澤富子 いのち
 本田宏 医療介護
 島崎ゆきこ 楽器を鳴らそう！
 道津喜八郎 直接会話を
 西川啓子・根本博 南の島々にも日本のどこにも軍隊はいらない！
 アメリカの盾にはならない！
 豊永雅雄 福祉を
 山下とも子 花束
 今川治 戦争イヤヤネン
 山口久美子 きぼう
 赤羽佳世子 隣人力
 片岡英夫 貧困対策
 ムラカミ・マサヒロ 共育・共生を！
 宮脇正和 対話こそ平和を生む！ミサイルよりもタイワを！
 加藤敦史・加藤由紀子 能登地震被災者支援
 菊谷節夫 軍事費削って平和の鐘を鳴らそう
 小林孝一 落ちやすいオスプレイよりも少子化対策を
 福井利明 パンと平和
 谷紀人 裏金解明を
 中村雅之・中村松美 愛
 松永尚哉 世界中の武器を花に変えよう！動植物もみんな喜ぶだろう！
 阿部千穂 平和憲法世界に広まれ！！
 野尻賢二 生活を
 金井英樹 軍事大国化・武器輸出 No！
 北橋世喜子・北橋輝博 平和を
 暉峻由紀子 ミサイルヨリモエガオトアクシュ
 齊木登茂子 武力で平和はつくれない！
 村上光子 お花畑
 伊藤元久 災害復興



小川和美・小川翔太 戦争は絶対悪です。
 土井ちづ子 外交の力を！
 北條義信 食料自給率を
 上屋安信 障がい者支援を！
 古川久江 笑顔（1人1人の幸せを！）
 守谷政義・守谷かよみ 水・食・空
 高島武雄 子どもの笑顔
 乗鞍高原佐の屋：佐々木達人 外交を
 内田達哉・内田民子 和平
 西原孝夫・西原律子 医療の充実を
 秋好素子 世界中の人々対話を
 浅尾紘也 子どもたちの未来を
 佐藤龍市 外交努力
 荒木敬三 会話
 品川美好・佐藤直子 教育費ゼロ
 佐藤多鶴子・佐藤真紀 仲良く
 菊地愛・菊地淳一 "ミサイルよりも、おいしいごはんを！
 現在憲法はとても良いと思います。変更する必要を感じません！
 森田邦彦 外交力
 佐藤玲子 命の糧を
 大津留求 花束を
 森功功喜 最低賃金の引き上げを 1500 円に
 野津功・睦子 日米安保条約を見直し外交力で平和を求める国に生まれ変わろう
 島上さく たべもの
 樋口弘恵・畑山和則 笑顔を 優しさを 温かさを
 加藤政和 愛を！
 石下直子 おいしいものを
 大竹台吉 食糧支援
 阿部善信 世界に誇る我らの9条
 瀬山春彦 花束を
 西川幾之進 外交力を！
 角邦子 暮らし
 吉田ミユキ 対話を
 柳澤研 ひまわりの種を
 長井始 平和を
 花岡誠一 外交力 災害対策
 安達安人・純子 えがお
 北村洋美 福祉施設を
 達富かよ子・橋本恵美子 花束を
 松浦倫子 スマイルを
 佐伯隆三 いのちと平和、そして子どもの笑顔が大切！
 丸山悦子 青空を
 辻哲夫 貧困対策
 溝口昌樹 自らの平和に向けた矜持を示す交渉を
 金只律子 飯と家
 野澤章子 全人類に幸せ
 奥田充子 花ノ木
 川崎一儀 食べ物 ことば
 城山大賢 非武装 絶対平和
 大谷弘子 全人類の共存共栄
 吉田綾子 子どもに食べ物！
 岡川圓 相互愛
 木田真雄・木田泰子 えがお
 大崎かおる 戦争に名をかりたヒトゴロシをやめて！
 松下哲男 災害対策を
 山野辺恵美子・山野辺富士雄 一日も早い被災地支援・復興を
 東海林なほみ・東海林ある子 生活を！ まともな生活できないって
 のが、より最大の危機でしょーが。
 北原幼子 少子化対策を
 土井勝典・土井久美子 教育へ
 貝原良児 人間平等 軍備全廃
 柳瀬文恵 人類の幸福を！！
 沢田正子 生活を！
 門脇佐栄子 教員の大幅な増員を
 可知亮・可知めぐみ 花束を ハグを
 北村聡・北村ゆかり とことん話し合い
 大角洋子 教育
 四居比奈湖 対話 "地球"への攻撃は許されません
 鎌田利治 ミサイルよりも日米安保の廃棄を！
 吉野典子 対話
 西村不可止 文化交流を

長瀬みさ子 対話を
 斉藤久仁子 子どもに食料を
 笠松桂子 人間力
 立浪徹 生活費を 豊かな生活を
 池口明男 外交力
 守屋光雅 ビース
 久保知子 殺すのも殺されるのもイヤ！
 皆川珂奈江 話し合いを！！
 中村あけみ 生活費を
 中野護 「9条」を世界にぶっぱなせ！
 板橋俊子 ハナタバを又は花束を
 友田シズエ 外交力
 松本房子 能登の復興
 田平康子 ワクチン
 池田雄二 真の平和を守る外交力が問われている
 田植重男 平和外交に全力を！
 森清 外交は勝負を決めるのではなく双方生きること！
 赤松竜・江口直美 福祉と医療を！
 毛利勝典 人権保障を！
 三井富士夫 平和憲法を！
 Codepink Osaka 命とくらしを！
 木村肇二郎 笑顔の子どもたち
 大谷尚子 被災者支援
 澁川洋治 難民保護を
 関根恭子・関根浩司 戦争ゼロ！
 山内博喜 お互いに分かり合おうとする寛容の力を
 豊巻絹子 くらしを
 吉原真次 話し合い 相互理解
 崎村政幸 ドクターヘリを
 井原俊博・井原美代子 憲法九条は歴史的な誇り
 栗城理一 政治を政治家のトモダチや米国でなく憲法実現のために
 中村淑子 へいわ
 鈴木敬二 9条を活かした平和を！
 西塚徳治・西塚郁子 対話を！
 川口重雄 倦むことなく続けていきましょう。
 桜井邦彦 外交努力
 四宮大二郎 平和の明かりを消さないで
 田淵英久 広島市長の教育勅語の研修利用に抗議します。
 難波幸矢 戦争は始まったら止められない！
 今方向転換しないと間に合わない
 加藤安喜・荒巻千秋 外交力を！
 小田川興 「非核平和」のたいまつを世界へ
 木下寛治 脱自民
 喜友名真紀子 花を
 大西和典・大西佐智子 子ども食堂
 鈴木康紀 防衛省の戦前回帰を許すな。ミサイルよりシェルターを
 新井秀弘 給食費
 山野下とよ子 教育
 矢崎美佳子 すべての人に住宅を！
 正富久子 生活を 九条を忘れてないよ！
 新宮美和 外交 対話 会話 話し合い
 若松伸明 おむすび
 杉下芳松 平和学
 石村恵利子 相互愛
 野崎恵美 核兵器なき世界を
 黒田弘朗 善外交
 塚越道子・塚越敏雄 平和外交を
 増沢一春 人間愛
 風間昭彦・風間啓子 グンカクヨリ ガイコウ
 伴場一昭 外交を
 森和恵・森隆子 対話による平和を
 管美代子 友愛
 向井康子 外交力を！
 宮野誠司 話し合いを
 高力英夫 軍備でなく外交努力を！
 根本准子 外交を
 和井福雄 平和外交
 三原憲法朗読会 世界の子どもらを「9条」で励まそう
 西野節子・時比古 へいわ
 佐藤行俊 無軍備
 沼澤栄一 軍備廃止を

5月-----

阿部静子 外交力を
大上悦子・明日村希 食べ物を！
浜田幸雄 対話
橋本雅文・橋本潤子 九条を 外交支援を
成田強 9条を！
伏見泰子 交渉力を
蒲原宏行 国際交流の促進を
赤坂耕志 アメリカにべったりの日本政府にはうんざりです
角谷香子 あい
松村麗子 平和が一番
安藤礼子 ガザの子らに食料を！
大村忠嗣・白倉健・日詰武雄・亀井浩人 災害予防
杉山ヒサ子 青い空
大野富美子 パリテ
三宅正徳・三宅りつ子 憲法九条を世界に広めよう！
太田廣 政権交代のため投票に行きましょう
道津弘二 戦力よりも憲法をいかした暮らしを
五十嵐文夫 パンを
打越紀子 子ども支援
内田弘志 ミサイルよりも対話力を！九条は国民の宝だから
赤沢美恵子 大地に花を がれきの山に代わり花々が咲き乱れ
踏みじられることがありませんように
花束を
松田智 寛容さを
河村あゆみ 本を
太田正樹
目次ゆきこ 子どもたちの笑顔を
二田坂喬一・二田坂百合恵 「自衛隊も米軍も日本にはいらない」
花岡蔚さんの著書の読書会を全国の9条の会で始めよう
新島勝 オムライスを
木村公一 憲法9条は一字一句たりとも変えさせない
田坂量慈・田坂千晶 まごころ
山下恒雄 災害救援の整備
浅井栄子 花束
狭山市 80 歳 イノチ
土井律紀・土井尚美 軍拡（ミサイル）よりも社会保障を
畑秀和 スマイル
谷代久恵 武器を売るな！若者を戦争に駆り立てるな！
天野忠雄・天野シマ子 ミサイルよりも平和を きちんとした外交を
子どもたちの笑顔を
松田正久 非戦を
北出省三 米国の植民地からの独立を
渡辺正彦・渡辺祥子 スマイルを
木村雅英・木村啓子 思いやり
山田律子 へいわ
奥下厚子 対話力 独立国として日本国民の意思を明確に
アジアの国々と話し合ってほしい
松原洋一 外交力を
小出慶子 ミサイルより第九条 今こそ
憲法第9条を世界遺産に登録すべきです
橋爪洋之 憲法の平和主義を忘れるな
渡辺隆一 教育を
加藤大弥 給食
共益的正義・法文化研究所 平和への権利を
齋藤邦彦・齋藤由理子 笑顔の花を
水本和実 平和外交
林田慎一郎 核も戦争もない平和な地球を子どもたちへ
松尾重信・松尾福子 対話による平和を
橋本三千代 子どもに食事を
山崎叔子 ミサイルより貧困家庭にお金を。教育にお金を。
有山陽子 命を
細井伸一郎 平和は武力に拠らない
北澤洋男 9条を
中田美幸 対話を
干鯛久子 子どもに絵本を
浜田芳子 暮らしに余裕
櫻本悦子 食べ物を
下井一夫・下井峰子 人殺しをしない平和外交を
吉村りよみ 防災を
黒岩祐治 平等互惠の軍縮外交
神田久 平和

高橋榮子 へいわを
斉藤弘子 福祉
阿部義久 民に愛を
桑原亘之介 生活を
吉田千佳子 謝罪と対話
手塚玲子 対話を
四本仁子 貧困撲滅
松下智子・松下良博 外交力を
中山順子 非戦を
樋田美子 対話による平和を
柏村セツ子 ミサイルより9条を世界の国へ届けよう
石渡秋 反戦争
羽室浩子 非戦平和を
大森薫 平和外交
小林貴子 命とくらし優先を
伊藤冴子 いのち くらし
滝和子・滝史郎 協定力を！
内幸美 平和の外交を
岡本敏雄・雅子 地球愛
菊地伸視 9条の心
座馬淳子・中瀬和子・三浦ふみ江・箕浦敦子・山県佳子 温かいスープ
を
こいけけいこ ミサイルを買うよりもこの地に住む人々に健康で
文化的な生活をあまねく行きわたらせる為に使え
花のたね
伊藤素美 楽器を
長堂登志子 対話力を 共感力を 創造力を
松本孚 福祉を
高崎和美 平和
菊池ケイ 自給率
明石光子 平和を
芳賀美江 憲法九条を世界に！
西川恵子 両手で握手を
渡辺ひろ子 国連力
平尾芳郎
八代淑子・佐藤小豆・佐藤琢也・佐藤則子・佐藤麦太 孫たちに老後の安心を
太田展生 外交力
岩崎明生 話し合いを
藤本政男 外交努力を
網野裕 永遠の宇宙を
皿海達哉 人類愛を
大谷猛夫 核戦争は人類の破滅
川守田裕司・吉島美樹子 対話による平和
森本芙紗子 小中学校を大事にしてください
高橋智子 ミサイルよりもヘイワを発進しよう、広島から
平松伴子 年金増
清水正人 私は人殺しになりたくない！
山本聖子 青い空を
岡本育子 話し合い
山下哲弘・山下権一 小鳥を
瀬口昭代・瀬口貞 あくしゅ
石黒弘基 軍隊を持たない国「コスタリカ」に学ぼう
扇谷智恵子 対話
川端善一郎 予防努力
須賀登喜代 人々への愛を
車地かほり えがお はなしあい 花束
岩本恵子 平和を
中尾忠夫 戦争は我々の人権と生存権への敵である
吉川彰 対話力
小野寺修子 対話
田淵瑞恵 外交力
白井操 生活保障を
富山裕美 憲法前文、9条を
松崎光成 非戦外交
馬場慎治・恵子 核禁止条約を
安田恭子 対話による平和を！
岡田光生 平和外交
齊藤久子 対話
塩野たつ子・塩野龍男 話し合いによる平和をつくろう
松本宣崇・松本一恵 空港、港湾の軍用化を止めよう
佐藤皇太郎 保険証を



輪湖昇 食料の自給
野村光子 安心、安全、平和な社会を！
江田吉友 世界の子どもに笑顔を
内藤文子 隣人愛
北村由紀子・北村達夫 教育費ゼロ（大学生でも）最賃 1500 円以上
谷代久恵 政治家清浄者を
佐々木あけみ 暮らしが第一
高磨眞佐子 絶対に核はいらない
岩崎保則 ことば
西村善次 平和を！
三角忠 メシを
富矢伸史 国民、市民の命、健康と平和な生活
清水孝良 友好を
村上治恵・中西智昭 ストップ！憲法改悪
谷井利明 憲法を活かそう！九条改憲 NO！
沢口悦子 平和の花束を
岡田紀子 平和を
鎌田清 復興を！
松崎民雄 軍拡やめて教育無償化
西原孝夫 軍拡予算を教育へ
川村ひろみ 平和便
坂本政隆・坂本いく子 ガザに平和を！
井上正弘 やっと生まれた双子の孫娘のためにも平和を
小濱真実子 和平
向井均・圭子 福祉と教育
瀬瀬和美・瀬瀬スエ子 ストップ ザ ミサイル
折口晴夫 「救援隊」を
西原寿美子 こどもたちに平和な暮らしを受け継がせたい
安井さよ子・安井俊夫 食糧を
森山正博・森山聡子 武器よりも鉛筆を！ミサイルよりも絵本を！
松本公子 外交力
小澤彰一 えん筆
浅野幸司 ミルク
織田信夫 交わり
柳沢千賀子 イスラエルのパレスチナ占領反対！
ロシアもウクライナも戦争やめよう！
宮崎良子 対話
真鍋知巳 ミサイルよりもヘイワを！平和を守る交渉を続けることが大切
富矢伸史 ミサイルよりも平和で健康的な生活を全世界に
上田京子 対話力
波多野郁子 子どもたちの未来を
日下部信雄 子ども老人への給食
水谷完治 世界平和ビジョン
村田かおり 会話を
橋本あき・希和 本気の核廃絶
平松泰典 非戦の意思を
吉井康彦 信義を
吉田邦子・吉田信夫・吉田和子 「1936 年生まれ（吉田邦子）
1947 年樺太から引き揚げ戦争体験は忘れない」地球上に平和を！
國貞守男 教育を
寺井秀登 平和な未来を
吉村りよみ ご飯
川上ひのこ 熱い愛
山田薫 外交力を
せきやようこ へいわ
木村眼科クリニック木村肇二郎 武器より平和・命・愛を！
広瀬澄雄 教育を充実させよ 年金生活者
山下綾子 スマイルを
高下圭一 外交努力
中村雅之・中村松美 愛
花ノ木清子 永久の平和列車を広島より発車！
中村信義 れきしは繰り返す 後戻りは許さない
坂口晴一郎 トルストイの宣言：戦争より恒久平和を
青木義勝 武器よさらば
青木暁美 平和
平澤マチ子 えがお 対話 外交
尾上雅俊 友好
成田弘子 外交力を
村上聖子 対話 交流
遠藤怜子 いのちを
大野てるよ 対話と共存を

赤坂耕志 パレスチナに平和を
河内節美 花
小林文枝 外交力
羽江育子 子どもの学び
佐藤政行 笑顔で対話を
葦妙依 話し合い
安達純子 平和が一番
岩永昌子 食糧を
宮本優子 外交力がいちばんいいと思います。これで行こう！
川松万里子 平和
亀田康子・末広円 税金でアメリカを助け、沖縄を捨て
民を捨てる政を許さない
西村義孝 生活に安心と安全を
野尻賢二 普遍の愛
金田美知子 ところ
安岡千絵里・尾木原唯史・尾木原溪 若い人にお金を使ってください。
教育費を！奨学金を！保育園費を！
浅見洋一 友好 対話
壱岐昌弘 教育無償化
みんなの未来を考える会 防衛拠点よりも市民の毎日の暮らしを
もっと考えて！子ども達に愛を！笑顔を！
松本忠司・松本真佐枝 一人一人の命を
鳥取市 9 条の会 平和のはと風船を
渡辺吉男 美味しい朝ご飯を
原田優子 教育費を
橋口正子 対話
土尻俊雄 中国との友好を
益田明美・藤井初子・益田紀志雄 教育にお金を使おう
寺澤祐子 結集した声を
堤可奈恵 手と手
村重敦子 外交力を
浅岡喜美子・孝夫 弱者に穏やかな生活を
鈴木藤房 学費無償を
小笠原靖・小笠原潤子 みんなの幸せ
土屋ゆい子 次代につなぐ美しい世界を
上里恵子 きれいな海を
加藤安喜・荒巻千秋 外交力
松谷操 愛
松田基子 友好の架け橋を
金子彰 対話
大江宏 子どもたちの笑顔を
柏木直人・柏木小枝子 バラ
梅田義治 ミルクを！
佐藤芳幸 対話による平和
松浦弘子・松浦真 被災地にトイレを
小野邦英 強外交
新藤知樹 外交努力
土井由三 子どもたちの笑顔
大野一則 年金を増やせ
大野鈴子 介護職の賃金増やせ
浅賀恭子 仲直り
寺西義廣・緒方暖斗・寺西純子・緒方美桜 平和を
木村広昌 子どもたちが輝く未来
片岡利郎・片岡千恵 ヘイワ
末広円 軍備で人は守れない。笑顔で結ぼう
伊藤敦子 平和を
亀山美代 人権を保障している憲法を守りたいです。
高垣妙子 軍備でもりも外交で
三森進 平和外交
青木茂雄 抑止力は平和を作らない
深澤裕 美味しい水を
寺島萬里子・高橋敦子 社会保障
浅賀さき江 市民力を
清水博子 生活を
安保法廃止をめざす栗山町民の会 笑顔を
小田川興 「非核平和」こそ人類生き残りの道
堅田晃英 平和の外交
田嶋孝至 国民の生活第一に
山崎行紀 憲法生かせ
村上麗子 外交力
御手洗珠穂 相手に声を聴く心を



淵上慶子 外交力
 藤井孟 トップ同士が抱擁
 安達葉子 今すぐ停戦を。核のない世界に。
 坂口隆信 エンビツを
 磯幸子 戦いよりも話し合いを
 伊田翔子 えがおを
 九条の会 牛田 もっともっと多くの愛と平和
 澤野重男 もっともっともっと多くの愛と平和
 三田宜充 緊張緩和の外交
 石田弥生 とともに生きる日々を
 名越祥子 教育無償化を
 宮原浩智・宮原恭子 笑顔
 藤田桃華書道教室 スマイル
 相川誠子 外交を
 塚本明美・塚本勝子 外交力を
 梅川照子 話し合おうよ！
 石黒瑛治 愛
 若木京子 食糧品
 鈴木義広 「社会保障」を
 田中幸男 「なのはな」を
 宮澤玲子 話し合い
 村上まり枝 災害時は雑魚寝よりテント生活を
 稲村宏子 外交力
 篠原旭 人の心の理解
 赤木沙佳子 連帯を
 大森愛子 平和外交を
 向井すず子 未来の子どもたちにも水と緑の地球を
 平田仁士 あやまちは繰り返すまい
 奈良直子・奈良周一 ノーモア ヒロシマ・ナガサキ
 松本愛郎 平和とはお互いを尊重しあえること 中村哲先生より
 佐藤明吉 住居と食料を
 別木由枝 繋がる心
 島根飯南はとぼっぱの会 上空をけふも見上ぐるひとびとへ
 ミサイルよりも差し伸べん手を
 三多摩演劇をみる会有志の会 平和でなければ文化を享受できない。
 二度と桜隊はつくらせない。
 高木美栄子 平和こそが人を幸せにする。

7月-----

小野尾孝子 平和と命を
 牛島忠夫 パンと水と静かな夜を
 岡本百世 外交努力を
 麦っ子畑保育園・大島貴美子 ミサイルよりもいのち
 石垣江里 米国からの独立を
 村田暁美 外交力を。恒久の平和を願います
 青野知英子・井川晃一 外交力
 森部信・森部榮子 武器放棄 基地撤去 軍備撤廃
 川瀬和夫 恒久平和
 波多野和子・波多野聡 愛の絆を
 大西建美 花束
 島本海豊子 ヘイワ
 野々村説子 食物を 外交力を 対話を 教育を
 三芳英教 ミサイルよりも「9条を守って」平和の信頼を
 上ノ坊輝也 1969年末の反万博主義者 残念乍ら美術建築の
 「前衛」は死メツ 「維新」独占の中の一市民
 黒田恵 いのち
 遠藤淳 給食を
 吉川徹忍 戦争国家に向けて新たな「戦死者」のための靖国神社への
 テコ入れ。教育勅語宣伝。信教の自由を守ろう
 立野トモ子 花を
 八谷健二 ミソシルを
 藤田浩文・由美子 対話を
 谷口初男・谷口ヤス子 子どもに笑顔
 大矢映美 武力では解決しないことは明らか。
 軍拡ではなく9条を守り平和教育を！
 奥田剛・奥田みどり・悠・慧 我々はあきらめない！
 平和の理想を信じて前に進む！
 玉城陽子 対話を
 後藤義昭 子どもの笑顔を
 坂田光永・坂田章子 民主主義を（坂田光永）お祭りを（坂田章子）

米山容子 美味しいモノを
 米倉慎一郎 食料を
 関根世志子 教育
 森田由美子・森田修・久富初江 おにぎり
 諸橋泰樹 ヤングケアラーのケアを
 植山文雄 地球上の植物・動物を大切に。できれば人類も。
 伊藤しげ子・河田昌東 8/6 広島平和式典にgenocideを続ける
 「イスラエルを招待」するということに驚きと怒りが湧きます。
 大町宏志 清禁欲を
 古橋雅夫 教育支援
 菅茂樹・みゆき・こゆき・惇 ハグを
 斉藤能身 フクシ
 吉原真次・吉原恵津子 対話と相互理解を
 上屋安信 花束を
 廣島一衛 農業技術の供与を
 佐藤玲子 低所得者のくらしを
 森藤理至 福祉へ
 藤兼義行 友情
 甲斐高之 未来ある子どもたちの笑顔のために
 甲斐高之・甲斐由紀子 未来の子どもたちの笑顔を大切に
 江口玲 教育を
 末光和子 平和を
 大蔵律子 水と食と青い空
 白戸清・白戸羊子 もっと大胆な外交力・対話の継続・観光客の交流
 木下久美子 言葉を交わそう。殺し合わないための心と言葉を交わそう
 白水悦子 食べ物
 小平忠美 フクシ
 新海旭 くらし
 小坪輝美 教育福祉の充実を
 今井公一 武力で平和はつukれない
 鈴木有 世界に平和
 堀込康美・堀込啓一 おむすび
 栗田一郎・栗田道子 愛の言葉を
 村上まり枝 対話を対面で
 吉岡龍雄・吉岡淑子 外交力を
 佐野克行 外交力でよいと思います
 室慶子 草の根の交流
 東口友子 お互いの平和的生存権を作り出そう
 小山尚吾・小山和美 ひまわりの種を
 鈴木捷彰 がんこに平和！暮らしが一番！"平和憲法" 未来に残そう！
 森尚久 チャランケ（アイヌ語で談判）
 岡本剛 弱い人に配慮すれば優しい世の中になる。
 優しい世の中になれば本当の平和が訪れる。
 長谷川貴彦 バラの花を
 西嶋民子 平和力を
 小柴裕子 外交力
 沖博義・沖佐和子 戦争は人権侵害です
 村下範子 外交力
 東健治・秀実 対話による平和
 若菜裕子 ごはん
 森あやこ 種子を守ろう！愛情を！
 笠原美恵子・久幸・広畑紀子・松井千里・溝口浩史・藍
 未来の世代が輝ける国づくりを
 川端秀紀・栄子 「平和」失ってからでは遅い
 壹貫田明美 ピース
 中本博光 原発の廃止を切に願っています
 大治朋子・大治浩之輔 人類愛
 井上高志 花火
 向井好美 会話のキャッチボールを
 大島一洋 一冊の絵本を
 沖和子 平和を
 谷口正光・谷口羊子 平安な暮し
 納谷ヒロ子 外交力を

8月-----

小川桂絲香 きれいな水を
 山本えり子 非戦 ゴーとこの日常がつづいていきますように
 小田弘平 この会の働きが平和への道を開くことを祈ります
 長塚敬子 新聞広告すばらしかったです

～8月15日

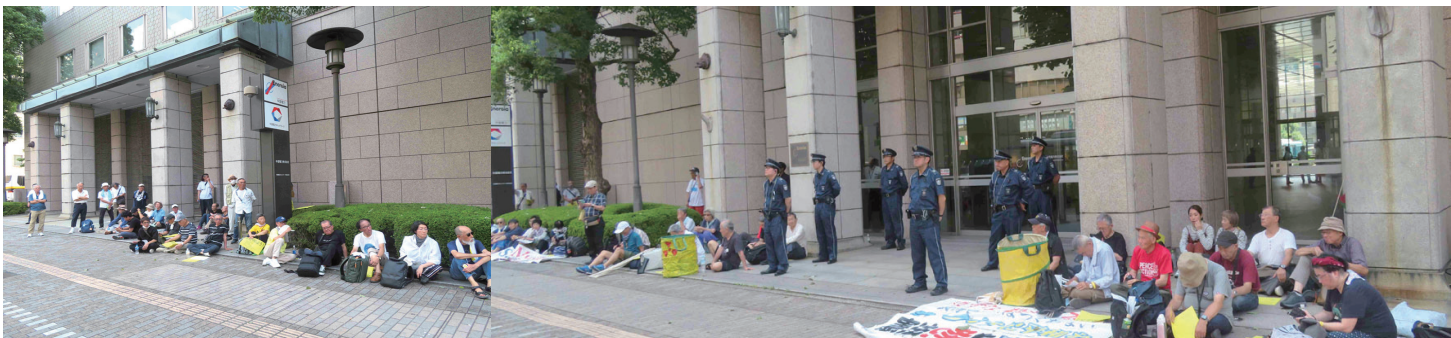
8・6反戦・反原子力・反ジェノサイド



8・6反戦・反原子力・反ジェノサイド広島デモ



脱原発座り込み行動（中電本社前）



活動報告（第九条の会ヒロシマほか 関連団体、実行委員会含む）

- 6月 6日（木） 第九条の会ヒロシマ会報発送
 9日（日） 島根原発再稼働反対街宣活動（本通り青山前）15時～ 中止
 12日（水） 「アフガニスタンのいま 女性と子どもたち…」RAWAと連帯する会 広島市民交流プラザ
 16日（日） ピースリンク連続講演会2：池田五律さん（ビューポートくれ）14時～
 18日（火） ピースリンク呉駅前街宣 & 例会
 19日（水） 広島市民連合連絡会による「野党合同街頭行動」17:30～18:15 本通り電停前
 22日（土） 島根原発再稼働反対街宣活動（本通り青山前）15時～ 雨天中止
 23日（日） 「沖縄慰霊の日」集会 中村さんの語りと演奏（広島YMCA）& 平和公園親水テラス雨天中止
 24日（月） ヒロシマ総がかり世話人会 18時～ 広島弁護士会館&オンライン
 26日（水） 中国電力株主総会 10時～ 脱原発へ！中電株主の会株主総会参加
 9時～13時 中電本社前行動 上関ネット

第九条の会ヒロシマ世話人会 14時～ 広島国際会議場3F研修室
 「呉製鉄所跡地の『複合防衛拠点』化は問題だらけ」九条の会・呉 19:00～ 呉市山の手会館

- 7月 3日（水） 日本軍「慰安婦」問題解決 水曜行動（青山前）12時～ 広島本通り電停前
 第九条の会ヒロシマ世話人会 14時～ ゆいぽーと会議室
 ヒロシマ総がかり「3の日」行動 17時半～ 広島本通り電停前（青山）



8.6 島根原発再稼働反対署名提出

- 7日（日） 「日本は中国で何をしたか」中野勝さん（国際会議場研修室2）14時～
 10日（水） 第九条の会ヒロシマ世話人会 14時～ 広島国際会議場3F研修室
 17日（水） 第九条の会ヒロシマ名簿整理 13時～ 広島国際会議場3F研修室
 19日（金） 第九条の会ヒロシマ 8.6 意見広告名簿作り 13時～ 広島国際会議場3F研修室
 23日（火） 第九条の会ヒロシマ 8.6 意見広告校正1 13時～ 広島国際会議場3F研修室
 24日（水） ピースリンク広島・呉・岩国呉駅前街宣 & 例会
 28日（日） 共生フォーラム「多文化共生社会」の内実を問う 宋貞智さん（広島留学生会館）
 8月 5日（月） 8.6 ヒロシマ平和への集い 被爆・敗戦79年 ひとまちプラザ研修室AB 17時半
 ーイスラエルのガザ虐殺、パレスチナ占領をやめさせよう 田浪講演ほか

- 6日（火） 7:00 グラウンドゼロのつどい ひろしまゲートパーク内「ピースプロムナード」
 8:15 追悼のダイイン
 8:40 「8・6反戦・反原子力・反ジェノサイド広島」デモ ～中国電力本社前
 9:30 脱原発座り込み行動（中国電力本社前） & 上関ネット署名提出



- 7日（水） 日本軍「慰安婦」問題解決 水曜行動（青山前）12時
 10日（土） 「戦前から現代まで続く軍性暴力」8.14日本軍「慰安婦」メモリアルデー 高里鈴代講演会
 11日（日） 「今沖縄で起こっていること」高里鈴代講演会（ひとまちプラザ研修室C）
 20日（火） VFPベテランズ・フォー・ピース岩国報告集会 18時半～ 岩国市民会館
 21日（水） 広島総がかり世話人会 18時～ オンライン
 26日（月） ピースリンク広島・呉・岩国呉駅前街宣 & 例会
 28日（水） 上関原発止めよう！広島ネットワーク中電前行動 12時～13時
 31日（土） 「李鍾根さんのおもいを引き継ぐ会」13時～（台風のため延期）
 9月 3日（火） 「3の日」行動 ヒロシマ総がかり行動実行委員会 17時半～ 広島本通り電停前



（岡原美知子さん写真提供）

お知らせ

◆戦争をさせない三原市民行動 2024 講演会

9月13日(金) 18時半～三原市中央公民館2階中講堂
 講師：西岡由紀夫さん(ピースリンク広島・呉・岩国世話人)
 演題：「進む海上自衛隊呉基地の軍事化
 ～日本製鉄跡地問題を考える～」
 主催：戦争をさせない三原市民行動
 連絡先：090-7540-9470(上羽場)、090-9061-4028(藤本)

◆空母配備 50 年

～原子力空母の母港ヨコスカとヒロシマ・イワクニ

9月14日(土)14時～ 広島市西区民文化センター大会議室
 講師：新倉裕史さん(非核市民宣言運動・ヨコスカ)
 主催：岩国基地の拡張・強化に反対する広島県住民の会
 参加費：800円(学生・障がい者無料)
 オンライン申込：stop.iwakunikichi@gmail.com ～9月10日
 連絡先：090-3373-5083(新田)

◆不戦のつどい「被爆地で何が起きているのか」

9月15日(日)13時半 広島弁護士会館3階大ホール
 ＊オンライン申込 <https://jcj0915.peatix.com> ～9月13日
 講師：高瀬毅さん(ノンフィクション作家)
 資料代 500円(学生・障がい者無料)
 主催：日本ジャーナリスト会議広島支部
 連絡先：090 9060 1809(藤元)

◆～知りつなぎりとめる～

大軍拡と基地強化に NO！西日本交流集会

9月21日(土)13時半30～ ビューポートくれ大会議室
 参加費：無料(カンパ歓迎)
 報告 ①呉で進む基地強化：西岡由紀夫さん
 ②映像で見る西日本を中心に進む基地強化：木元茂夫さん
 ③うるまを中心にした沖縄での動き：
 ④オスプレイとヘリの拠点化される佐賀：
 ⑤大型弾薬庫建設とミサイル特科団配備：
 主催：ピースリンク広島・呉・岩国
 連絡先：090-3373-5083(新田)

◆「気候変動とおうち断熱のお話」

9月22日(日)14時～ 広島弁護士会館2階大会議室
 講師：小野綾子さん(国際環境 NGO350Japan 気候変動講師)
 釘宮貴志さん(徳島県地球温暖化防止活動推進員)
 主催：世界気候アクション広島
 連絡先：a.nagahashi1129@gmail.com(小野)

◆上映会「ワタシタチハニンゲンダ！」

9月29日(日)14時半～ 在日大韓基督教会広島教会
 (広島市西区上天満町9-3)
 主 催：外国人住民との共生を実現する
 広島キリスト者連絡協議会(外キ連)
 連絡先：082-234-0798(中江)

◆九条の会・はつかいち総会・記念講演会

◆10月5日(土) 13:30～総会、14:00～16:30 講演会
 ◆廿日市市商工保健会館交流プラザ1Fホール
 ◆布施祐仁さん(ジャーナリスト)
 ◆「日米同盟の深化と変わる自衛隊
 ～自衛隊輸送群創設と日鉄跡地問題」
 ◆主催：九条の会・はつかいち
 ◆資料代：800円(学生・障がい者無料)

◆呉基地フィールドワーク

10月19日(土) 集合時間8:30、JR廿日市駅集合
 主催：九条の会・はつかいち 参加費：1000円
 連絡先：090-3373-5083(新田) オンライン申込先(新田)

◆憲法9条を守る 第19回音楽と講演のつどい

10月6日(日)14時～16時半 ビューポートくれ大ホール
 講師：宇吹暁さん(元広島女学院大学教授)、
 音楽：ファニーフレンズ(サクソ・アンサンブル・バンド)
 主催：呉九条の会連絡センター
 連絡先：伊藤英敏(080-3876-4543) 岡西清隆(090-1185-5011)

◆第19回共生フォーラムセミナー

「韓国語を教えて40年一在日2世として生きる」

10月26日(土)14時半～ 西区地域福祉センター3階大会議室
 会員のみ録画配信 申込先は下記連絡先
 参加費・資料代：500円(正会員、大学生以下無料)
 講師：李菊枝さん(韓国語教員)
 主催：NPO 法人共生フォーラムひろしま
 後援：広島市・広島市教育委員会
 連絡先：070-3771-9235 kyosei.fh@gmail.com

◆「なぜ、朝鮮学校差別が生まれるのか？」

～差別の根っこから考える～

11月9日(土)13時～16時40分 広島朝鮮初中高級学校
 (広島市東区山根町37-50)
 講師：呉永鎬さん(鳥取大学准教授)、
 森達也さん(映画監督、作家)他
 主催：朝鮮学校を支援する全国弁護士フォーラム2024in 広島実委員会
 連絡先：082-227-8781(平田かおり)

◆女性に対する暴力撤廃の国際デー

キャンドルアクション in ひろしま

11月25日(月)17:30～18:30 原爆ドーム(東側)
 内容：キャンドル点火・リレートーク
 主催：日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワーク
 連絡先：090-3632-1410(土井)



中国電力へのハガキキャンペーンにご協力を

島根原発2号機の再稼働をしないで！

- ①原発は危険です！
- ②原発がなくても電気は足りています
- ③中国電力に安全運転はできません。



2024 年の会費・カンパをお願いしま～す！

- ・8.6 意見広告 2024 を掲載できました。ご賛同くださった皆さんに感謝！今秋も、皆さんと共に岸田政権の遺した大軍拡・大増税原発再稼働、松井市政の悪政の数々に立ち向います。
- ・タックシールに皆さまの会費・賛同金など入金状況を記載しています。間違いがあれば、遠慮なくご連絡くださいますように。
- ・意見広告に少し無理をして会費まで食い込みました。会費24がまだの方、また再カンパなど、ご支援を、よろしくお願い致します。

事務局から

後記

- ・8.6 意見広告、お約束通り掲載できてホッ！ しかも初めはモノクロだと思ってたのに7月になって朝日だけはカラーにできて… まさに皆さんのおかげ！
- ・PFAS の勉強をもっとしなければ。けれど問題が大きすぎて。それにしても米 VFP の人たちの運動への覚悟ってスゴイ！
- ・暑いですね。でも私は10日ほど、野尻の夫の故郷に行って静養しました。子どもたち家族と。都会と違って涼しい。自然の力って素晴らしい。人間にはかなわないですよ。(土)
- ・秋も頑張りましょう。でもどうぞご自愛のほど…